うへです。
○あなたは　にいさんより　としが　いくつ　したですか。
△わたくしは　あにより　としが　○○したです。
○あなたと　にいさんは　としが　いくつ　ちがひますか。
△○○　ちがひます。
○わたくしは　あなたがたより　としがうへですか、したですか。
△あなたは　わたくしたちより　としがうへです。
○あなたがたは　わたくしより　としがうへですか、したですか。
△わたくしたちは　あなたより　としがしたです。
○□さんは　いくつですか。
△○○です。
○あなたと　□さんは　としが　いくつ　ちがひますか。
△○○　ちがひます。（または「ちがひません。」「おなじ　としです。」）
△○その他。

三　備　考

前課から始る兄弟姉妹の年齢問答に關する教材は、本課で一應終つてゐるので、こゝで一括して復習することが必要である。

第二十七課　（第二十七頁）

一　教　材

ワタクシノ　カゾクワ　ゴニンデス。
アナタノ　ゴカゾクモ　ゴニンデス。
ドチラモ　オナジ　ニンズデス。
構文　**○○ノ　○○モ　○○デス。**
語彙　**カゾク　ゴ(カゾク)　ドチラ　オナジ　ニンズ**
〔教具〕掛圖等。

二　指　導

(一)　要　領

1　本課は、家族の人數問答に關する教材で、「○○の○○も○○です。」といふ構文を授けるとともに、「かぞく」「ご(かぞく)」「どちら」「おなじ」「にんず」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては、「よく」「でき(ました)」等の

語彙を補充することとした。

3　「あなたの　ごかぞくの」の「ご」は相手の家族を敬ふ意を表はす接頭語である。この場合必要に應じては、學習者の母國語で「ご」の意味を簡單に説明してもよい。中の卷第二十三課の「あなたのおともだち」の「お」と十分連絡をとることが肝要である。

(二)　問　答

1　復習

○あなたは　にいさんが　ありますか。
△はい、あります。（または、いいえ、ありません。）
○あなたの　にいさんは　いくつですか。
（兄のある學習者に）
△○○です。
○あなたは　いくつですか。
△○○です。
○あなたの　にいさんは　あなたより　としが　いくつ　うへですか。
△○○　うへです。
○わたくしより　としが　うへですか。
△いいえ、したです。（または、はい、うへです。）
○わたくしより　としが　いくつ　したですか。
△○○　したです。（または、わかりません。）
○あなたは　わたくしより　としが　うへですか、したですか。
△したです。
○あなたは　わたくしより　としが　いくつ　したですか。
△○○　したです。

もし學習者中に兄弟・姉妹のある者が一人もないやうな場合には、掛圖により、適宜同樣な問答をする。

2　提示

○この　ゑを　ごらんなさい。これは　○○さんの　ごかぞくです。
○これは　どなたですか。（父を指して）
△○○さんの　おとうさんです。
○これは　どなたですか。（母を指して）
△○○さんの　おかあさんです。
○これは　○○さんの　にいさんですか、ねえさんですか。（姉を指して）
△ねえさんです。
○これは　○○さんの　おとうとさんですか、いもうとさんですか。（妹を指して）
△いもうとさんです。
△○その他。
○○○さんには　おとうさんと　おかあさんと　にいさんと　ねえさんと　おとうとさんと　いもうとさんが　あります。
このかたたちは　○○さんの　ごかぞくです。
○○○さんの　ごかぞくは　いくにんですか。かぞへてみませう。
ひとり　ふたり　さんにん　よにん　ごにん　ろくにん　しちにん、しちにんです。
○○さんの　ごかぞくの　にんずは　しちにんです。
○○○さんの　ごかぞくは　しちにんですか。
△はい、さうです。
○○○さんの　ごかぞくは　ごにんですか。

△いゝえ、さうではありません。
○○○さんの　ごかぞくは　いくにんですか。
△しちにんです。
○かぞへてごらんなさい。
△ひとり　ふたり　さんにん　よにん　ごにん　ろくにん　しちにん。
○さうです。（よく　できました。）
○わたくしの　かぞくは　○○です。（實數）
○わたくしには　○○と　○○と　○○が　あります。
○あなたにも　ごかぞくが　あります。
○あなたの　ごかぞくは　いくにんですか。
△○○にんです。
○□さん、あなたの　ごかぞくは　いくにんですか。
△ごにんです。（または他の數）
○××さん、あなたの　ごかぞくは　いくにんですか。
△ごにんです。（または他の數）
○□さんの　ごかぞくは　ごにん、××さんの　ごかぞくも　ごにん、どちらも　おなじ　にんずです。
○△△さん、あなたの　ごかぞくは　いくにんですか。
△ろくにんです。（または他の數）
○□さんの　ごかぞくと　おなじ　にんずですか。
△いゝえ、ちがひます。
○△△さんの　ごかぞくと　いくにんちがひますか。
△ひとり　ちがひます。

○わたくしの　かぞくは　○○にんです。
あなたの　ごかぞくと（にんずが）いくにん　ちがひますか。
△○○にん　ちがひます。（または、「おなじ　にんずです。」）
○これは　××さんの　ごかぞくです。（板書する。）
○××さんの　ごかぞくは　いくにんですか。
△ごにんです。
○これは　□さんの　ごかぞくです。
□さんの　ごかぞくは　いくにんですか。
△ごにんです。
○どちらも　おなじ　にんずですか。
△はい、さうです。
△○その他。

○黒板に
ワタクシノ　カゾクワ　ゴニンデス
アナタノ　ゴカゾクモ　ゴニンデス
ドチラモ　オナジ　ニンズデス
と書く。右の符號を讀ませる要領は前課の如くする。

3　總括
○わたくしの　かぞくは　○○にんです。（實數）
○あなたの　ごかぞくは　いくにんですか。
△わたくしの　かぞくは　○○にんです。
○どちらも　おなじ　にんずですか。
△はい、さうです。（または、「いゝえ、さうではありません。」）
○これは　××さんの　ごかぞくです。
（略畫を示して）

○これは　おとうさん、これは　おかあさん、これは　にいさん、これは　いもうとさんです。（略畫を指しながら）

○××さんの　ごかぞくは　いくにんですか。

△ごにんです。

○あなたの　ごかぞくと　おなじ　にんずですか。

△はい、さうです。（または、「いゝえ、さうではありません。」）

○△その他。

三　備　考

(一)　カゾクをカゾグに、ドチラをトジラ・ドジラに、デキマシタをデチマシタに誤り易いから注意を要する。

(二)　本課は、中の卷第六課の人の數へ方に關する教材と連絡して教へることが必要である。

(三)　中の卷第二十三課から始る兄弟・姉妹・父母等の家族に關する教材は、一應本課で終つてゐるので、こゝで纏めて總復習するとよい。

第二十八課　（第二十八頁）

一　教　材

ドノ　イエニモ　ハタガ　タテテアリマス。

アレワ　ニッポンノ　コッキデス。

構文　**ドノ　○○ニモ　○○ガ　○○テアリマス。**

語彙　**ドノ（ニモ）ハタ　タテ(テアリマス)（タテ)テアリマス**

ニッポン　コッキ

〔教具〕　日本の國旗、中華民國の國旗、滿洲國の國旗、掛圖等。

二　指　導

(一)　要　領

1　本課は、日本の國旗に關する教材で、「どの○○にも○○が○○てあります。」といふ構文を授けるとともに、「どの」「(いへ)にも」「はた」「たて(てあります)」「(たて)てあります。」「にっぽん」「こくき」等の語彙を修得

させるのが主眼である。

2　本課に於ては、「さくら」「とうきゃう」「おおき(なさい)」「どこ」「しな」「まんしうこく」「(いへ)だけに等の語彙を補充することとした。

3　「どの　いへにも　はたが　たててあります。」の「たててあります。」は、他動詞に「てあります」がついて動作の狀態を表はすいひ方である。「○○てあります型」は學習上困難であるから、類例をできるだけ多く練習させることが肝要である。

(二)　問　答

1　復習

○あなたは　にいさんが　ありますか。

△はい、あります。(または、「いゝえ、ありません。」)

○あなたより　としが　いくつ　うへですか。(兄のある學習者に)

△わたくしより　○○　うへです。

○あなたの　ごかぞくは　いくにんですか。

△わたくしの　かぞくは　○○にんです。

○これは　○○さんの　ごかぞくです。(同數の略畫を示して)

○○○さんの　ごかぞくは　いくにんですか。

△ごにんです。

○あなたの　ごかぞくも　おなじ　にんずですか。

△はい、さうです。

○どちらも　おなじ　にんずですか、ちがひますか。

△どちらも　おなじ　にんずです。

△○その他。

2　提示

○この　ゑを　ごらんなさい。

○いへが　たくさん　あります。

○これは　いへです。(掛圖の繪を指して)

○これも　いへです。

○これは　にっぽんの　いへです。

○とうきゃうは　にっぽんに　あります。

○これは　はた　です。(旗の實物または掛圖の繪を示して)

○これは　どこの　はたですか。

△にっぽんの　はたです。

△○その他。

○この　いへには　はたが　たててあります。

○この　いへにも　はたが　たててあります。

○どの　いへにも　はたが　たててあります。

○いへには　みんな　はたが　たててあります。

○この　いへには　はたが　たててありますか。(掛圖を指して)

△はい、たててあります。

○あの　いへには　はたが　たててありますか。(窓外の家または黒板の略畫を指して)

△いゝえ、たててありません。

△○その他。

○みなさん、ほんを　おだしなさい。

○ほんを　つくゑの　うへに　おおきなさい。

○いま、どの　つくゑの　うへにも　ほんが　あります。

○この　ほんには　ゑが　かいてありますか。
△はい、かいてあります。
○どの　ほんにも　ゑが　かいてありますか。
△はい、どの　ほんにも（ゑが）かいてあります。
○その他。
△○この　いへには　なにが　たててありますか。（掛圖を示して）
△はたが　たててあります。
○どの　いへにも　たててありますか。
△はい、どの　いへにも　たててあります。
○あれは　どこの　はたですか。
△にっぽんの　はたです。
○これは　にっぽんの　はたです。

これは　にっぽんの　こくきです。（日本の國旗を示して）
○これは　しなの　こくきです。
○これは　まんしうこくの　こくきです。
○あれは　にっぽんの　こくきですか、しなの　こくきですか。
△にっぽんの　こくきです。
○これは　どこの　こくきですか。
△しなの　こくきです。
○この　いへには　こくきが　たてあります。
△はい、たててあります。
○どこの　こくきが　たててありますか。
△にっぽんの　こくきが　たてあります。
○その他。
○黒板に

ドノ　イエニモ　ハタガ　タテテアリマス
アレワ　ニッポンノ　コッキデス

と書く。右の符號を讀ませる要領は前課の如くする。

3　總括

○この　ゑを　ごらんなさい。
○これは　なんですか。
△いへです。
○これは　どこの　いへですか。
△にっぽんの　いへです。
○この　いへには　なにが　たてあります。
△はたが　たてあります。
○どこの　はたですか。
△にっぽんの　はたです。
○それは　にっぽんの　こくきですか。
△はい、さうです。
○どこに　たてありますか。
△いへに　たてあります。
○この　いへだけに　たてありますか。
△いゝえ、どの　いへにも　たてあります。
○なにが　どの　いへにも　たてありますか。
△にっぽんの　こくきが（どの　いへにも）たてあります。
△○その他。

三　備　考

(一)　發音上ハタをハダに、タテテアリマスをタデデアリマスに、ニッポンをニポン・ニッポンに、コッキをコキ・コッチ等に誤り易いから注意を要する。

(二)　ニッポンのアクセントは、單獨の名詞として用ひる場合はニッポンとなる。

(三)　本課の如き「〇〇てあります型」を授けるには、中の卷第一課「さいてゐます。」第十課「あそんでゐました。」、第十一課「なにをしてゐますか。」等を參照する必要がある。

第二十九課　（第二十九頁）

一　教材

ヒノ　デル　ホーオ　ヒガシト　イイマス。

ヒノ　ハイル　ホーワ　ナントイイマスカ。

構文　〇〇ノ　〇〇　ホー（ワオ）　〇〇ト　イイマス（カ）。

語彙　ヒ　デル　ホー　ヒガシ　ハイル

〔教具〕　掛圖等。

二　指導

(一)　要領

1　本課は、方角に關する教材で、〇〇の〇〇はうを（は）〇〇といひます（か）。といふ構文を授けるとともに、「ひ」「でる」「はう」「ひがし」「はいる」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては、「（なんじ）ごろ（でせう）」「（なんじごろ）でせう。」「まいあさ」「もって（てゐます）」

す)「あさ」「よる」「ひる」「にし」(はいります)「ゆふがた」「ハナシコトバ」等の語彙を補充することとした。

3　本課から第三十一課までは、東西南北の方角に關する一聯の教材であるから、相互の連絡に注意することが肝要である。

4　「ひの　でる　はうを　ひがしと　いひます。」の如き構文を授けるには、先づ「ひの　でる　はうは　ひがしです。」といふいひ方と、「○○を　○○と　いひます。」といふいひ方を十分修得させてから指導に入るがよい。

(二)　問　答

1　復習

○この　ゑを　ごらんなさい。(掛圖を示しながら)

○これは　なんですか。

△いへです。

○どこの　いへですか。

△にっぽんの　いへです。

○これは　なんですか。

△はたです。

○どこの　はたですか。

△にっぽんの　はたです。

○これは　にっぽんの　こくきですか。

△はい、さうです。

○どこに　たててありますか。

△いへに　たててあります。

○この　いへだけに　たててありますか。

△いゝえ、どの　いへにも　たてあります。

○どの　いへにも　なにが　たてあり

ますか。

△にっぽんの　こくきが　たててあります。

△○その他。

2　提示

○この　ゑを　ごらんなさい。

○これは　ひです。

○いま　ひが　でてゐます。

○なんじごろでせう。

○○○じごろでせう。(日が出てちよつとたつた頃の時間)

○いまは　あさです。

○ひは　あさ　です。

○ひは　まいあさ　○○じごろ　です。

△○その他。

○□さん、あなたは　とけいを　もってゐますか。

△はい、もってゐます。(または「いゝえ、もってゐません。」)

○いまは　なんじですか。

△○○じ　○○ふんです。(正しい時間を用ひる。)

○いまは　あさですか。(または「よるですか。」)

△いまは　あさです。(または「よるです。」)

○あなたは　あさ　がくかうに　きますか。

△はい、あさ　きます。(または「いゝえ、きません。」)

○ひは　あさ　ですか、よる　ですか。

△ひは　あさ　です。

○ひは　ひがしから　です。(東を指して)こちらは　ひがしです。

こちらは　にしです。(西を指して)
ひは　まいあさ　ひがしから　でます。
ひは　にしに　はいります。
○ひは　あさ　はいりますか。
△いゝえ、(あさは)　はいりません。
○さうです。ひは　ゆふがた　はいります。
○ひの　でる　はうは　ひがしです。
○ひの　はいる　はうは　にしです。
△○その他。
○この　がくかうは　○○がくかうと　いひます。
○このほんは「ハナシコトバ」と　いひます。
○わたくしは　○○と　いひます。
○この　はなは　なんと　いひますか。
△さくらと　いひます。(掛圖または略畫を示して)
○さくらのはなは　いつ　さきますか。
△しぐゎつに　さきます。
○しぐゎつは　はるですか、なつですか。
△はるです。
○なんぐゎつから　なんぐゎつまでを　はると　いひますか。
△さんぐゎつから　ごぐゎつまでを　はると　いひます。
○ひが　でる　はうを　ひがしと　いひますか、にしと　いひますか。
△ひがしと　いひます。
○それでは、ひの　はいる　はうは　なんと　いひますか。
△にし　といひます。
△○その他。
○黒板に
ヒノデル　ホーオ　ヒガシト　イイマス

ス
ヒノハイル　ホーワ　ナント　イイマスカ
と書く。右の符號を讀ませる要領は前課の如くする。

3　總括
○ひは　あさ　でますか。
△はい、あさ　でます。
○ひは　どちらから　でますか。
△ひがしから　でます。
○ひは　どちらに　はいりますか。
△にしに　はいります。
○ひは　いつ　はいりますか。
△ゆふがた　はいります。
○ひの　でる　はうを　なんと　いひますか。
△ひがしと　いひます。
○ひの　はいる　はうは　なんと　いひますか。
△にしと　いひます。
○ひがしは　どちらですか。
△あちらです。(東を指して)
○にしは　どちらですか。
△あちらです。(西を指して)
△○その他。

三　備考

(一)　ヒをシに、ヒガシをシガシ・シガジに、モッテイマスをモテイマス・モッデイマスに、ユーガタをユガダ・ユーガダに、ハナシコトバをハナジコドバ・ハナジゴドバ等に誤り易いから注意を要する。
(二)　「ひの　でる　はうを……」といふいひ方の「の」は、中の卷第二十三課あの　せい

の　たかい　かたは……」の「の」と同じく、名詞を修飾するときは「の」をとり、いひ切りに用ひるときは「ひが　でます。」「せいが　たかい。」の如く「が」をとる。

(三)　「〇〇を　〇〇と　いひます。」といふいひ方は、中の卷第十七課で授けてあるから、同課と連絡して教へることが必要である。

第三十課　（第三十頁）

一　教材

ドチラノ　ホーガ　ミナミデスカ。
ミナミノ　ハンタイノ　ホーオ　ナント　イイマスカ。

構文

語彙　**ミナミ　ハンタイ**

〔教具〕掛圖等。

二　指導

(一)　要領

1　本課は、前課と同じく方角に關する教材で、既習の構文によつて、「みなみ」「はんたい」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　「はんたい」といふ語は、現段階に於て實用上さほど大切なものではないが、教室作業に於て新語の提示並びに練習に極めて便利な語である。隨つて、この語そ

のものを修得させるとともに、反對語をいはせることに留意することが肝要である。

(二)　問　答

1　復習

○この　ゑを　ごらんなさい。(掛圖を指して)

○これは　なんですか。

△ひです。

○ひは　いつ　でますか。

△あさ　でます。

○これは　あさの　ゑですか。

△はい、さうです。

○ひは　どちらから　でますか。

△ひがしから　でます。

○ひの　でる　はうを　なんと　いひますか。

△ひがしと　いひます。

○ひの　はいる　はうを　なんと　いひますか。

△にしと　いひます。

○ひがしは　どちらですか。

△あちらです。(東を指して)

○ひの　はいる　はうは　どちらですか。

△あちらです。(西を指して)

○ひの　はいる　はうは　なんと　いひますか。

△にしと　いひます。

○その他。

2　提示

○ひがしは　どちらですか。

△あちらです。(東を指して)

○どちらの　はうが　にしですか。

△あちらです。(西を指して)

○あちらの　はうは　みなみです。(南を指して)

あちらの　はうは　きたです。(北を指して)

○ひがしの　はんたいは　にしです。

みなみの　はんたいは　きたです。

○ひがしの　はんたいの　はうを　にしと　いひますか。

△はい、さう　いひます。

○ひがしの　はんたいの　はうを　みなみと　いひますか。

△いゝえ、さう　いひません。

○ひがしの　はんたいの　はうを　なんといひますか。

△にしと　いひます。

○どちらの　はうが　みなみですか。

△あちらです。

○みなみの　はんたいの　はうを　なんと　いひますか。

△きたと　いひます。

○どちらの　はうが　きたですか。

△あちらです。

○その他。

△黑板に

ドチラノ　ホーガ　ミナミデスカ

ミナミノ　ハンタイノ　ホーオ　ナント　イイマスカ

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括

○ひがしは　どちらですか。

△あちらです。(東を指して)

○みなみは　どちらですか。

△あちらです（南を指して）
○きたは　どちらですか。
△あちらです。（北を指して）
○どちらの　はうが　にしですか。
△あちらです。（西を指して）
○にしの　はんたいの　はうを　なんと
　いひますか。
△ひがしと　いひます。
○みなみの　はんたいの　はうを　なん
　と　いひますか。
△きたと　いひます。
△○その他。

三　備　考

ドチラをドジラに、ハンタイをハンダイに誤り易いから注意を要する。

第三十一課　（第三十一頁）

一　教　材

ジドーシャガ　ミナミノ　ホーエ　ハシッテイキマシタ。
ヒコーキガ　ヒガシノ　ホーカラ　トンデキマシタ。
構文　**○○ガ　○○ノ　ホー（エ・カラ）　○○テ（イキ・キ）マシタ。**
語彙　**ジドーシャ（ハシッ）テイキマシタ　ヒコーキ**
　　トン（デキマシタ）（トン）デキマシタ。

〔教具〕掛圖等。

二　指　導

一）要　領

1　本課は、「○○が○○のほう（ほ・ほ・ほ）（から・へ・を）○○て（いき・き）ました。」といふ構文を授けるとともに、「じどうしゃ（じ・ど・ー）（はしっ）ていきました」「ひかうき（ひ・こ・ー）」「とん（できました）」（とん）できました」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては、「はやく（はしります）」「と

まっ(て)「ゆっくり」(とびます)等の語彙を補充することとした。

3　新構文「はしっていきました。」「はしってきました。」は「いった」狀態を表はし、「とんでいきました。」「はしってきました。」は「きた」狀態を表はすもので、既習の「はしってゐました。」「とんでゐました。」等が「はしる」「とぶ」の過去の狀態を表はすのとは異たることに注意して教へることが必要である。

4　第二十九課から始る東西南北の方角に關する教材は、一應本課で終つてゐるから、こゝで纏めて練習することが肝要である。

(二)　問　答

1　復習

○ひの　でる　はうを　なんと　いひますか。

△ひがしと　いひます。

○どちらの　はうが　ひがしですか。

△あちらです。(東を指して)

○ひがしの　はんたいの　はうを　なんと　いひますか。

△にしと　いひます。

○にしは　ひの　でる　はうですか、ひの　はいる　はうですか。

△ひの　はいる　はうです。

○どちらの　はうが　みなみですか。

△あちらです。(南を指して)

○みなみの　はんたいの　はうを　なんと　いひますか。

△きたと　いひます。

○どちらの　はうが　きたですか。

△あちらです。(北を指して)

○きたの　はんたいの　はうを　なんといひます。

△みなみと　いひます。

○その他。

△

2　提示

○この　ゑを　ごらんなさい。(掛圖によつて)

○これは　じどうしゃです。

じどうしゃは　はやく　はしります。

この　じどうしゃは　はやく　はしってゐます。

○これは　なんですか。

△じどうしゃです。

○この　じどうしゃは　はしってゐますか、とまってゐますか。

△はしってゐます。

○この　じどうしゃは　はやく　はしってゐますか、ゆっくり　はしってゐますか。

△はやく　はしってゐます。

○こちらは　みなみで　あちらは　きたです。(掛圖で方向を示して)

○じどうしゃは　みなみの　はうへ　はしっていきました。

じどうしゃは　きたの　はうから　きました。さうして、みなみの　はうへ　はしっていきました。

○ごらんなさい。わたくしは　いま　あるいてゐます。

わたくしは　まどの　はうへ　あるいていきます。

○わたくしは　どちらの　はうへ　あるいていきますか。

△まどの　はうへ　あるいていきます。

○この　じどうしゃは　どちらの　はうへ　はしっていきますか。
△みなみの　はうへ　はしっていきます。
○これは　ひかうきです。（掛圖の繪を指して）
○この　ひかうきは　とんでゐます。
○ひかうきは　はやく　とびます。
○この　ひかうきは　はやく　とんでゐますか、ゆっくり　とんでゐますか。
△はやく　とんでゐます。
○この　ひかうきは　どちらの　はうから　とんできましたか。
△ひがしの　はうから　とんできました。
○わたくしは　どこへ　あるいていきますか。
△まどの　はうへ　あるいていきます。
○わたくしは　どこから　あるいてきましたか。
△まどの　はうから　あるいてきました。
△まどの　はうから　あるいてきました。
○その他。
○黒板に

ジドーシャガ　ミナミノ　ホーエ　ハシッテイキマシタ
ヒコーキガ　ヒガシノ　ホーカラ　トンデキマシタ

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總　括

○わたくしは　どこへ　あるいていきますか。
△まどの　はうへ　あるいていきます。
○わたくしは　どこから　あるいてきましたか。
△まどの　はうから　あるいてきました。

○これは　なんですか。
△じどうしゃです。
○これは　なんですか。
△ひかうきです。
○この　じどうしゃは　どちらの　はうへ　はしっていきますか。
△みなみの　はうへ　はしっていきます。
○この　ひかうきは　どちらの　はうから　とんできましたか。
△ひがしの　はうへ　とんできました。
○この　ひかうきは　どちらの　はうへ　とんでいきますか。
△にしの　はうへ　とんでいきます。
○その他。

三　備　考

(一)　ジドーシャをジドシャに、ホーエをホエに、ハシッテイキマシタをハシデイキマシタ・ハシッテイチマシタに、ヒコーキをヒコキ・シコチに、トンデキマシタをトンデチマシタに誤り易いから注意を要する。

(二)　本課の「はしっていきました。」は上の巻第三十六課「あのこどもは　はしってゐます。」と、「みなみの　はうへ」の「へ」は上の巻第四十課「さいとうさん、こゝへ　きてください。」と、「ひがしの　はうから」の「から」は中の巻第十四課「かほや　からだから」とそれ〴〵連絡すべきである。

第三十二課　（第三十二頁）

一　教材

ミナサン、ウタオ　ウタイマショー。
サー、イッショニ　ウタイマショー。
構文　ミナサン、〇〇オ　〇〇マショー。
語彙　ウタ　ウタイ（マショー）（ウタイ）マショー　サー
　　イッショニ
符號　ショ
〔教具〕本五册・唱歌集等。

二　指導

(一)　要領

1　本課は「みなさん、〇〇を〇〇ませう。」（ショー）といふ構文を授けるとともに「うた」「うたひ（ませう）」「（うたひ）ませう。」「さあ」（サー）「いっしょに」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては「（しってゐます）ね。」「それから」「いちど」「ひとりで」「これまでに」等の語彙を補充することとした。

3　本課及び次の課は「〇〇ませう。」といふ勸誘を表はすいひ方を授ける一聯の教材である。

(二)　問答

1　復習

〇これは　なんですか。（掛圖の繪を示して）
△じどうしゃです。
〇これは　なんですか。
△ひかうきです。
〇この　じどうしゃは　はしってゐます　か、　とまってゐますか。
△はしってゐます。
〇はやく　はしってゐますか、ゆっくり　はしってゐますか。
△はやく　はしってゐます。
〇じどうしゃは　どちらの　はうへ（ホーエ）　は　しっていきますか。
△みなみの　はうへ　はしっていきます。
〇この　じどうしゃは　どちらの　はう　から　はしってきましたか。
△きたの　はうから　はしってきました。
〇この　ひかうきは　とんでゐますか、　とまってゐますか。
△とんでゐます。
〇はやく　とんでゐますか、ゆっくり　とんでゐますか。
△はやく　とんでゐます。

○どちらの　はうから　とんできました
か。
△ひがしの　はうから　とんできました。
△○その他。
2　提示
○こゝに　ほんが　たくさん　あります。
(本を示して)
さあ、かぞへませう。いっさつ　にさ
つ　さんさつ　しさつ　ごさつ、ごさ
つ　あります。
○さあ、みなさん、いっしょに　かぞへ
ませう。
いっさつ　にさつ　さんさつ　しさつ
ごさつ。(一齊に)
○これは　なんの　ほんですか。
○うたの　ほんです。(唱歌集を示して自答)
○(學習者の知つてゐる歌を少し歌ひ)こ
れは　うたです。
わたくしは　うたを　うたひました。
○みなさんは　うたを　しってゐますね。
○わたくしが　うたを　うたひます。そ
れから　いっしょに　うたひませう。
(學習者の知つてゐる唱歌を歌ふ。)
○□さん、あなたは　うたを　しって
ゐますか。
△はい、しってゐます。
○あなたは　いま　うたを　うたひまし
たか。
△はい、うたひました。
○みなさん、もう　いちど　うたを　う
たひませう。(一齊に歌ふ。)
○□さん、あなたは　なにを　うたひ
ましたか。
△うたを　うたひました。

○ひとりで　うたひましたか、いっしょ
に　うたひましたか。
△いっしょに　うたひました。
△○その他。
○黒板に
ミナサン　ウタオ　ウタイマショー
サー　イッショニ　ウタイマショー
と書く。この取扱方の要領は前課の如
くする。
○みなさん、これを　よみませう。
さあ、いっしょに　よみませう。(一齊
に讀む。)
△○その他。
3　總括
○こゝに　ほんが　あります。
○さあ、いっしょに　かぞへませう。
△○いっさつ　にさつ　さんさつ　しさつ
ごさつ。
○もう　いちど　いっしょに　かぞへま
せう。
△○いっさつ　にさつ　さんさつ　しさつ
ごさつ。
○みなさん、うたを　うたひませう。
さあ、いっしょに　うたひませう。
○□さん、あなたは　うたを　しって
ゐますか。
△はい、しってゐます。
○みなさんも　うたを　しってゐますか。
△はい、しってゐます。
○それでは、みなさん、うたを　うたひ
ませう。
○さあ、いっしょに　うたひませう。(一
齊に歌ふ。)
△○その他。

○けふは　これまでに　しませう。

三　備　考

(一)　ウタをウダに、ウタイマショーをウダイマショに、イッショニをイショニに誤り易いから注意を要する。

(二)　勸誘を表はす「○○ませう」とか「いっしょに」等は、生活に即して、その折々に修得させておくべきである。

第三十三課　（第三十三頁）

一　教　材

ヒガ　クレマシタ。

デントーガ　ツキマシタ。

ハヤク　ウチエ　カエリマショー。

構文

語彙　**クレ(マシタ)　デントー　ツキ(マシタ)　ハヤク**

〔教具〕掛圖等。

二　指　導

(一)　要　領

1　本課は、前課の「○○ませう。」といふ構文の復習をするとともに「くれ(ました)」「でんとう」「つき(ました)」「はやく」等の語彙を授けるのが主眼である。

2　本課に於ては「あかるく」「くらく」「いります(要)」「ゐ(ゐ)では」「まだ(です)」「かね」「なりまし

た(鳴)「じかん」「けいこ」「すみ(ました)」「そと」等の語彙を補充することとした。

(二)　問　答

1　復習

○さあ、はじめませう。
○みなさん、これは　なんですか。
△ほんです。
○いくさつ　ありますか、いっしょに　かぞへてみませう。
△○いっさつ　にさつ　さんさつ　しさつ　ごさつ。
○もう　いちど　かぞへて　みませう。
△○いっさつ　にさつ　さんさつ　しさつ　ごさつ。
○さうです。さあ、ほんを　あけませう。
○□さん、よんでください。(讀ませる。)
○さあ、いっしょに　よみませう。
○みなさん、うたを　うたひませう。
さあ、いっしょに　うたひませう。(一齊に歌ふ。)
○△その他。

2　提示

○けふは　その　つぎを　しませう。
○この　ゑを　ごらんなさい。(掛圖の繪を示して)
○これは　ゆふがたの　ゑです。
○ひは　もう　にしに　はいりました。
○ひが　くれました。
○もう　あかるくはありません。くらくなりました。
○ですから、でんとうが　つきました。
○くらい　ときには　でんとうが　いります。

いまは　ゆふがたです。
(ですから)　でんとうが　いります。
○この　へやに　でんとうが　ありますか。
△はい、あります。(または「いゝえ、ありません。」)
○でんとうは　いつ　つきますか。
△ゆふがた　つきます。
○いつ　ひが　くれますか。
△ゆふがた　(ひが)　くれます。
○この　ゑでは　ひが　くれましたか。
△はい、(ひが)　くれました。
○でんとうは　もう　つきましたか。
△はい、つきました。
○□さん、こゝへ　おいでなさい。
はやく　おいでなさい。
○□さん、はやく　せきへ　おかへりなさい。
○□さんは　どこへ　かへりましたか。
△せきへ　かへりました。
○この　こどもは　どこへ　かへりますか。
△うちへ　かへります。
○黒板に

ヒガ　クレマシタ
デントーガ　ツキマシタ
ハヤク　ウチエ　カエリマショー

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

○「さあ、いっしょに　よみませう。」「さあ、はやく　しませう。」等を適宜に用ひる。

3　總括

○みなさん、この　ゑを　ごらんなさい。

○これは　あさですか、ゆふがたですか。
△ゆふがたです。
○ひが　くれましたか、まだですか。
△ひが　くれました。
○でんとうが　つきましたか、まだですか。
△でんとうが　つきました。
○この　こどもは　どこへ　かへりますか。
△うちへ　かへります。
○その他。
△鐘がなれば、次のやうにして授業を終るのもよい。
○かねが　なりました。
○じかんが　きました。
○けいこが　すみました。
○けふは　これまでに　しませう。
○はやく　そとへ　いきませう。

三　備　考

(一)　ヒをシ・ヒーに、デントーをデンドー・デントに、ツキマシタをツチマシダに、ハヤクをハヤグに、アカルクをアガルグに、クラクをグラグに、ソトをソドに誤り易いから注意を要する。

(二)　「かねがなりました。」「じかんがきました。」「けいこがすみました。」「けふはこれまでにしませう。」「はやくそとへいきませう。」等の言葉は、學習指導の實際に即して、その時その場合に應じて修得させておくとよい。

(三)　「いつひがくれますか。」の問に對して、「ゆふがたひがくれます。」と答へる如きは、嚴密に考へれば、正しい言葉遣ではないが、言語訓練上の必要に應じて許容することとした。

第三十四課　（第三十四頁）

一　教　材

タカハシサンガ　キョーモ　ヤスンデイマス。
ドーシタノデショーカ。

構文　**ドーシタノデショーカ。**

語彙　**ヤスン(デイマス)　ドーシ(タ)　(ショー)**

〔教具〕　掛圖等。

二　指　導

(一)　要　領

1　本課は、「どうしたのでせうか。」といふ構文を授けるとともに、「やすん(でゐます)」「どうし(た)」(せう)等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては、「べんきやう」「びやうき」(やすみました)等の語彙を補充することとした。

3　本課は、過去の事實の推量を表はす新

構文であるが、第三十九課までは、(但し第三十八課を除く)いづれも推量を表はす「○○でせう型であるから、相互の連絡を圖ることが肝要である。

(二)　問　答

1　復習

○かねが　なりました。
○けいこが　はじまりました。
○はやく　べんきやうを　しませう。
○この　ゑを　ごらんなさい。
○これは　いつの　ゑですか。
△ゆふがたの　ゑです。
○ひが　でてゐますか。
△いゝえ、でてゐません。
○ひが　くれましたか、まだですか。
△ひが　くれました。
○でんとうが　つきましたか、まだですか。
△(でんとうが)つきました。
○この　こどもは　どこへ　かへりますか。
△うちへ　かへります。
○その他。

2　提示

缺席した學習者があれば、
○□さんは　きのふ　がくかうへ　きませんでした。
○□さんは　きのふ　やすみました。
○□さんは　けふも　がくかうへ　きません。
○□さんは　けふも　やすんでゐます。
○どうしたのでせうか。
○びやうきでせう。

缺席者が一人もない時には。
○この　ゑを　ごらんなさい。
○これは　たかはしさんの　せきです。
○たかはしさんは　きのふ　がくかうへ　きませんでした。
○たかはしさんは　きのふ　やすみました。
○たかはしさんは　けふも　がくかうへ　きません。
○たかはしさんは　けふも　やすんでゐます。
○どなたが　けふ　やすんでゐますか。
△たかはしさんが　やすんでゐます。
○どうしたのでせうか。
△しりません。(または「びやうきでせう。」)
○その他。
△黑板に

タカハシサンガ　キョーモ　ヤスンデイマス
ドーシタノデショーカ

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括
○たかはしさんは　けふ　がくかうへきましたか。
△いゝえ、きません。
○たかはしさんは　けふも　やすんでゐますか。
△はい、やすんでゐます。
○どなたが　けふ　やすんでゐますか。
△たかはしさんが　やすんでゐます。
○どうしたのでせうか。
△しりません。(または「びやうきでせう。」)
○その他。
△黑板に

タカハシサンガ　キョーモ　ヤスンデイマス
ドーシタノデショーカ

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

○これは　どなたの　せきですか。
△たかはしさんの　せきです。
○たかはしさんは　きのふ　がくかうへ
　きましたか。
△いゝえ、きませんでした。
○たかはしさんは　けふ　がくかうへ
　きましたか。
△いゝえ、きません。
○たかはしさんは、きのふ　がくかうを
　やすみましたか。
△はい、やすみました。
○けふも　やすんでゐますか。
△はい、(けふも)やすんでゐます。
○どうしたのでせうか。
△しりません。(または「びゃうきでせう。」)
△○その他。

三　備　考

(一)　タカハシサンをタガハシサンに、ドーシタをドシタに誤り易いから注意を要する。

(二)　「たかはしさんがけふもやすんでゐます。」は、高橋さんを中心とした即ち主語に重きをおいたいひ方であり、「たかはしさんはけふもやすんでゐます。」は、高橋さんの行爲即ち述語に重きをおいたいひ方である。

(三)　「どうしたのでせうか。」の「か」は「どう」といふ疑問詞があるので、略しても差支ない。

第三十五課　(第三十五頁)

一　教　材

ミチガ　ヌレテイマス。
アメワ　イツ　フッタノデショーカ。
ユーベ　フッタノデショー。
構文　○○ワ　イツ　○○タノデショーカ。
語彙　ミチ　ヌレ(テ)　アメ　イツ　フッ(タ)　ユーベ
〔教具〕水・掛圖等。

二　指　導

(一)　要　領

1　本課は、「○○はいつ○○たのでせうか。」といふ構文を授けるとともに、「みち」「ぬれ(て)」「あめ(雨)」「いつ」「ふっ(た)」「ゆふべ」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては、「みづ」「かわい(て)」「ゆび」「やすんで」けれども等の語彙を補充すること

ととした。

3　本課には、「あめは　いつ　ふったのでせうか。」の「ふった」といふ口語常體が新しく出てゐるから、既習の「くれました」「つきました」と比較して、これが口語常體では「くれた」「ついた」となることを説明し、更に中の巻第二十二課「だすのです。」と比較して「のです」に續く時には、普通には口語敬體を用ひないことを説明してもよい。

(二)　問　答

1　復習

○□さん、あなたは　きのふ　がくかうへ　きましたか。

△はい、きました。（または、「いゝえ、きませんでした。」）

○□さん、あなたは　きのふ　やすみましたか。

△いゝえ、やすみませんでした。（または、「はい、やすみました。」）

○○○さんは　けふ　やすんでゐますか。

△はい、やすんでゐます。（または、「いゝえ、やすんでゐません。」）

○どうしたのでせうか。

△しりません。（または、「びやうきです。」）

○この　ゑを　ごらんなさい。

○どなたが　やすんでゐますか。

△たかはしさんが　やすんでゐます。

○たかはしさんは　きのふ　やすみましたか。

△はい、（きのふ）　やすみました。

○どうしたのでせうか。

△しりません。（または、「びやうきです。」）

○△その他。

2　提示

○この　ゑを　ごらんなさい。

これは　みちです。

みちに　みづが　あります。

○このみちは　ぬれてゐます。

○かわいてゐません。

○この　ゆびは　かわいてゐます。（乾いた指を示して）

○わたくしの　ゆびは　ぬれてゐます。（指を水中に入れて）

○この　ゆびは　ぬれてゐますか、かわいてゐますか。

△ぬれてゐます。

○この　みちは　ぬれてゐますか、かわいてゐますか。

△ぬれてゐます。

○どうしたのでせうか。

○あめが　ふったのです。

○あめは　そらから　ふります。

○あめは　みづです。

○いま　あめが　ふってゐますか。

△はい、ふってゐます。（または、「いゝえ、ふってゐません。」）

○この　みちに　いま　あめが　ふってゐますか。

△いゝえ、ふってゐません。

○けれども　みちが　ぬれてゐます。

○あめは　いつ　ふったのでせうか。

○ゆふべ　ふったのでせう。

○あなたがたは　ゆふべ　やすみました。

○あなたがたは　ゆふべ　やすんで　けさ　おきました。

△○その他。

○黒板に

ミチガ　ヌレテイマス
アメワ　イツ　フッタノデショーカ
ユーベ　フッタノデショー

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括

○わたくしの　ゆびは　ぬれてゐますか。
（指をぬらして）
△はい、ぬれてゐます。
○このゆびは　ぬれてゐますか。
△いゝえ、ぬれてゐません。
○このみちは　ぬれてゐますか。
△はい、ぬれてゐます。
○どうしたのでせうか。
△あめが　ふったのです。
○あめは　いつ　ふったのでせうか。
△ゆふべ　ふったのでせう。
○□さん、あなたは　ゆふべ　やすみましたか。
△はい、やすみました。
○あなたは　ゆふべ　なんじごろ　やすみましたか。
△○○じごろ　やすみました。
○その他。

三　備　考

(一)　ミチをミジに、ヌレテイマスをヌレデイマスに、イツをイズに、フッタをフタ・フッダに、ユーベをユベに誤り易いから注意を要する。

(二)　本課の繪畫は學校の門のあたりを描いたもので、明かるい朝の日光があたつてをり、前の地面には雨に濡れてまだ乾かないところがある。

第三十六課　（第三十六頁）

一　教　材

コノ　アメワ　モー　ヤムデショーカ。
マダ　ナカナカ　ヤマナイデショー。

構文　**コノ　○○ワ　モー　○○デショーカ。**
マダ　ナカナカ　○○ナイデショー。

語彙　（コノ）　**モー　ヤム　マダ　ナカナカ　（ヤマ）ナイ**

〔教具〕　掛圖等。

二　指　導

(一)　要　領

1　本課は、前課と同じく天氣（雨）に關する教材で、「この○○はもう（モー）○○でせうか（ショー）。」及び「まだなかなか○○ないでせう。」といふ構文を授けるとともに、（この）「もう」「やむ」「まだ」「なかなか」「（やま）ない」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては、「ゆび」(どう)(なってゐます。)(ふりました。)「すま(ない)」等の語彙を補充することとした。

3　本課に於ては、「まだなかなか○○ないでせう。」といふ否定の推量の形式を十分修得させる工夫が肝要である。また「やまない。」と「やみません。」とを比較し、口語常體の否定形を與へるとともに、既出の動詞の否定形を練習させてもよい。

(二)　問　答

1　復習

○これはなんですか。(掛圖の繪を示して)
△みちです。
○このみちはかわいてゐますか、ぬれてゐますか。
△ぬれてゐます。
○わたくしのゆびはぬれてゐますか。
△いゝえ、ぬれてゐません。
○どうなってゐますか。
△かわいてゐます
○このみちもかわいてゐますか。
△いゝえ、ぬれてゐます。
○どうしたのでせうか。
△あめがふったのです。
○あめはいつふったのでせうか。
△ゆふべふったのでせう。
○あなたはゆふべがくかうへきましたか。
△いゝえ、きませんでした。
○あなたはゆふべやすみましたか。
△はい、やすみました。
△○その他。

2　提示

○いまあめがふってゐますか。
△いゝえ、ふってゐません。(または、「はい、ふってゐます。」)
○このゑをごらんなさい。(前課の掛圖を示して)
○あめがふってゐますか。
△いゝえ、ふってゐません。
○いつあめがふりましたか。
△ゆふべふりました。
○いまはもうやみました。
このあめはゆふべふりました。
さうしてもうやみました。
○こんどはこのゑをごらんなさい。(本課の掛圖を示して)
○あめがふってゐますか、やんでゐますか。
△ふってゐます。
○たくさんふってゐますか、すこしふってゐますか。
△たくさんふってゐます。
○それでは、このあめはもうやむでせうか。
○いゝえ、まだなかなかやまないでせう。(自答)
○いまはなんぐわつですか。
△○○ぐわつです。
○さくらのはなはもうさくでせうか。
そのほか適當なものについても試みる。
○いゝえ、まだなかなかさかないでせう。(自答)
○このほんはもうすむでせうか。
○まだなかなかすまないでせう。(自答)

○△その他。
○黒板に
コノ　アメワ　モー　ヤムデショーカ
マダ　ナカナカ　ヤマナイデショー
と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括

○もう　はるですか。（その他適當な時季を提示して）
△いゝえ、まだです。
○はなは　もう　さくでせうか。
△いゝえ、まだ　さきません。
○けふ　あめが　ふるでせうか。
△はい、ふるでせう。（または、「いゝえ、ふらないでせう。」）
○この　ゑでは　あめが　ふってゐますか。
△はい、ふってゐます
○あめは　たくさん　ふってゐますか。
△はい、たくさん　ふってゐます。
○この　あめは　もう　やむでせうか。
△まだ　なかなか　やまないでせう。
△○その他。

三　備　考

モーをモに、ヤムデショーをヤムデショに、ナカナカをナガナガに誤り易いから注意を要する。

第三十七課　（第三十七頁）

一　教　材

ソラガ　アカルク　ナッテキマシタ。
アシタワ　ハレルデショー。

構文

語彙　**アカルク**　〔**ナッ(テ)**〕　**ハレル**

〔教具〕

二　指　導

(一)　要　領

1　本課は既習の構文によつて「あかるく」〔なっ(て)〕「はれる」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては、「あとで」「だんだん」（うすく）「あまり」「くらく」「すると」等の語彙を補充することとした。

3　第三十五課から始る天氣（雨）に關する教材は、一應本課で終つてゐるので、こゝ

で纏めて練習させることが必要である。

(二)　問　答

1　復習

○この　絵を　ごらんなさい。(掛圖の繪を示して)

○こどもが　いくにん　あるいてゐますか。

△ふたり　あるいてゐます。

○みちは　かわいてゐますか、ぬれてゐますか。

△ぬれてゐます。

○どうしたのですか。

△あめが　ふってゐるのです。

○すこし　ふってゐますか、たくさんふってゐますか。

△たくさん　ふってゐます。

○この　あめは　もう　やむでせうか。

△まだ　なかなか　やまないでせう。

○かねは　もう　なるでせうか。

△まだ　なかなか　ならないでせう。

○その他。

△

2　提示

○ごらんなさい。いまは　あめが　たくさん　ふってゐます。(掛圖または黒板に略畫を書いて)

○そらには　くもが　たくさん　あります。

○あめは　なかなか　やまないでせう。

○みちや　うちは　かわいてゐますか、ぬれてゐますか。

△ぬれてゐます。

○あとで　そらが　あかるく　なってきます。

○くもが　だんだん　うすく　なります。

(略畫の雲を淡くして)

○そらは　あまり　くらくは　ありません。

○そらが　あかるく　なってきます。

○あとで　あめが　やみます。

○あとで　はれるでせう。

○□さん、これは　あかるい　そらですか、くらいそらですか。(暗い空の繪を指して)

△くらい　そらです。

○あとで　あかるく　なるでせうか。

△はい、あかるく　なるでせう。

○あとで　あめが　やむでせうか、やまないでせうか。

△あとで　やむでせう。

○いま　やむでせうか。

△いゝえ、いまは　やまないでせう。

○さあ、くもが　うすく　なってきました。

○そらが　あかるく　なってきましたか、くらく　なってきましたか。

△あかるく　なってきました。

○あとで　はれるでせうか。

△はい、はれるでせう。

○黒板に

ソラガ　アカルク　ナッテキマシタ

アシタワ　ハレルデショー

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

2　總括

○いま　あめが　たくさん　ふってゐますか、すこし　ふってゐますか。(掛圖または略畫を示して)

△たくさん　ふってゐます。

○そらには　くもが　たくさん　ありま

すか、すこしありますか。
△たくさん　あります。
○あちらは　くもが　すこしに　なりました。（圖示して）
○すると、あちらの　はうは　あかるくなりましたか、くらく　なりましたか。
△あかるく　なりました。
○あとで　こちらも　あかるく　なるでせうか。
△はい、あかるく　なるでせう。
○すると、あめは　あとで　はれるでせうか。
△はい、あとで　はれるでせう。
○いま　はれるでせうか。
△いゝえ、いまは　はれないでせう。
○あしたは　はれるでせうか。
△はい、あしたは　はれるでせう。
△○その他。

(一)　**備　考**

(一)　アカルクをアガルクに、ナッテキマシタをナテキマシタ・ナッテチマシダに、アシタをアシダに誤り易いから注意を要する。
(二)　「なってきます。」は「なっていきます。」とともに「なる」の進行形とも目すべきものである。

第三十八課　（第三十八頁）

一　教　材

サイトーサンワ　イマ　ココエ　キマシタカ。
イーエ、キマセンデシタ。
構文　**○○マセンデシタ。**
語彙
〔教具〕　掛圖等。

二　指　導

(一)　要　領

1　本課は「○○ませんでした」といふ構文によつて、動作の過去の否定形を修得させるのが主眼である。（本構文は補充的に既習させてあるが、本課に於て正式に取上げたのである。）
2　本課に於ては「ことば」といふ語彙を補充することとした。

(二)

問　答

1　復習

○みなさんは　にっぽんごを　よく　べんきやうしました。

○せんせいの　ことばは　みんな　わかりますね。

△はい、わかります。

○あなたには　にっぽんごが　やさしくなってきましたか。

△はい、やさしく　なってきました。

○この、ゐを　ごらんなさい。(掛圖の繪を示して)

○まへに　あめが　たくさん　ふってゐました。

○(けれども)　いまは　そらが　あかるくなってきました。

○あめは　たくさん　ふってゐますか。

△いゝえ、たくさん　ふってはゐません。

○あとで　はれるでせうか。

△はい、はれるでせう。

△○その他。

2　提示

○□さん、こゝへ　おいでなさい。

○○○さん、□さんは　こゝへ　きましたか。

△はい、そこへ　いきました。

○どなたが　こゝへ　きましたか。

△□さんが　いきました。

○□さんは　どこへ　いきましたか。

△そこへ　いきました。

○××さんは　こゝへ　きましたか。

△いゝえ、いきませんでした。

○□さん、あなたは　こゝへ　きましたか。

△はい、きました。

○あなたは　どこへ　きましたか。(同じ學習者に)

△こゝへ　きました。

○どなたが　こゝへ　きましたか。

△わたくしが　こゝへ　きました。

○××さんは　こゝへ　きましたか。

△いゝえ、きませんでした。

○□さん、せきへ　おかへりなさい。

○□さんは　いま　こゝに　ゐましたか。

△はい、ゐました。

○××さんは　こゝに　ゐましたか。

△いゝえ、ゐませんでした。

○○○さん、こゝへ　おいでなさい。

○○○さんは　いま　こゝへ　きましたか。

△はい、きました。

○○○さん、××さんは　いま　こゝへ　きましたか。

△いゝえ、きませんでした。

○○○さん、せきへ　おかへりなさい。

○黑板に

サイトーサンワ　イマ　ココエ　キマシタカ

イーエ　キマセンデシタ

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括

○□さん、こゝへ　おいでなさい。

○□さん、あなたは　いま　こゝへ　きましたか。

△はい、きました。

○××さんは　いま　こゝへ　きましたか。
△いゝえ、きませんでした。
○□さん　せきへ　おかへりなさい。
○□さんは　いま　こゝに　ゐましたか。
△はい、ゐました。
○□さんは　いま　こゝに　ゐますか。
△いゝえ、ゐません。
△○その他。

三　備　考

(一)　サイトーサンをサイドーサン・サイトサンに、ココエをコゴエに、キマセンデシタをチマセンデシダに誤り易いから注意を要する。

(二)　「いま」といふ語は、こゝでは現在といふよりも、現在を中心として過去・未來に跨る短時間を意味してゐる。

第三十九課　（第三十九頁）

一　教　材

キレーナ　トリガ　トンデキマシタ。
アレワ　ナント　ユウ　トリデショーカ。
構文　**○○ワ　ナント　ユウ　○○デショーカ。**
語彙　**キレーナ　トリ　（ユウ）**
〔教具〕

二　指　導

(一)　要　領

1　本課は、「○○はなんといふ○○でせうか。」といふ構文を授けるとともに、「きれいな」「とり」（いふ）等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては「なまへ」といふ語彙を補充することとした。

3　「○○はなんといふ○○でせうか。」といふ構文を授けるには、中の巻第十七課

「〇〇といひます。」と連絡するとともに、かかる構文は一度ではなか〳〵徹底させることが困難であるから、これまでに教室用語として生活に卽して修得させておくことが肝要である。

4　第三十四課から始る推量を表はす「〇〇でせう型」は、一應本課で終つてゐるので、こゝで纒めて練習させることが必要である。

(二)　問　答

1　復習

〇□さん、こゝへ　おいでなさい。
〇□さんは　こゝへ　きましたか。
△はい、そこへ　いきました。
〇□さん、あなたは　どこへ　きましたか。
△こゝへ　きました。(□に答へさせる。)
〇どなたが　こゝへ　きましたか。
△わたくしが　いきました。(□に答へさせる。)
〇□さん、まどの　そばへ　おいでなさい。
〇□さん、あなたは　どこへ　きましたか。
△まどの　そばへ　きました。
〇あなたは　こくばんの　そばへ　いきましたか。
△いゝえ、いきませんでした。
〇□さんは　どこへ　いきましたか。
(他の學習者に)
△まどの　そばへ　いきました。
〇□さんは　こくばんの　そばへ　いきましたか。

△いゝえ、いきませんでした。
〇その他。
△
2　提示

〇どなたが　いま　こゝへ　きましたか。
△□さんが　きました。
〇□さんは　あるいてきましたか、はしってきましたか。
△あるいて　きました。
〇あなたは　けふ　がくかうへ　あるいてきましたか、はしってきましたか。
△あるいてきました。
〇この　ゑを　ごらんなさい。(掛圖の繪を示して)
〇これは　とりです。
〇この　とりは　いま　こゝへ　きました。
〇とんできたのでせうか、あるいてきたのでせうか。
△とんできたのでせう。
〇さうです。この　とりは　とんできました。
〇なにが　とんできましたか。
△その　とりが　とんできました。
〇さうです。この　とりが　とんできました。
〇これは　きれいな　とりです。
〇これは　きれいな　ゑです。
その他種々な例を擧げて「きれい」の意味を理解させる。
〇きれいな　とりが　とんできました。
〇なにが　とんできましたか。
△とりが　とんできました。
〇どんな　とりが　とんできましたか。
△きれいな　とりが　とんできました。
〇きれいな　とりが　とうしましたか。

△とんできました。
○あれは　なんと　いふ（ユウ）　とりでせうか。
○あの　とりの　なまへ（エ）を　しってゐ（イ）ますか。
△しりません。
○あなたは　この　ほんの　なまへを　しってゐますか。
△はい、しってゐます。ハナシコトバです。
○さうです。これは　ハナシコトバといふ　ほんです。
○これは　なんと　いふ　ほんですか。
△ハナシコトバと　いふ　ほんです。
○これは　なんと　いふ　とりでせうか。
△しりません。
○わたくしも　しりません。きれいなとりですね。

○黒板に

キレーナ　トリガ　トンデキマシタ
アレワ　ナント　ユウ　トリデショーカ

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括

○これは　なんですか。
△とりです。
○どんな　とりですか。
△きれいな　とりです。
○この　とりは　どうしましたか。
△とんできました。
○どんな　とりが　とんできましたか。
△きれいな　とりが　とんできました。
○あれは　なんと　いふ　とりでせうか。
△しりません。

○これは　なんと　いふ　ほんですか。
△ハナシコトバと　いふ　ほんです。
○あなたの　みぎは　なんと　いふ　かたですか。
△□さんと　いふ　かたです。
△○　その他。

三　備　考

(一)　キレーナをキレナに、トリをドリに、ナント　ユウをナンド　ユウに誤り易いから注意を要する。

(二)「きれいな」を提示する時に、その反對語を提示するのも一方法であるが、「みにくい」は、話言葉として普通に用ひられてゐないし、「きたない」は「みにくい」よりも不潔の意味であるから、「きたない」を用ひるときには、その提示に注意して「きれいな」の反對語として適切な場合にのみ用ひなければならない。

第四十課　（第四十頁）

一　教材

ワタクシワ　コトリガ　スキデス。
アナタワ　ナニガ　オスキデスカ。
ワタクシモ　コトリガ　スキデス。
構文　〇〇ワ　〇〇モ　〇〇ガ　スキデス。
語彙　コトリ　スキ
〔教具〕

二　指導

(一)　要領

1　本課は、〇〇は(も)〇〇がすきです。といふ構文を授けるとともに、ことり「すき」等の語彙と(が)の用法を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては、「かご」「にひき」「いくひき」「きらひ」等の語彙を補充することとした。

3　本課は、好き嫌ひに關する教材であるが、好き・嫌ひ、上手・下手、希望等をいひ表はすには「〇〇は〇〇が（すき（きらひ）／じやうず（へた）／〇〇たいの）です。」の如き構文をとる。かゝる助詞「が」の用法に注意することが肝要である。

4　本課は、小鳥に關する教材として、前課の鳥に關する教材と連絡して教へる必要がある。

(二)　問答

1　復習

〇これは　なんですか。
△とりです。
〇どんな　とりですか。
△きれいな　とりです。
〇この　とりは　とんできましたか、あるいてきましたか。
△とんできました。
〇あれは　なんと　いふ　とりでせうか。
△しりません。
〇これは　なんと　いふ　ほんですか。
△ハナシコトバと　いふ　ほんです。
〇これは　なんと　いふ　ものですか。
（鉛筆を示して）
△えんぴつと　いふ　ものです。
〇その他。
△

2　提示

〇これは　ことりです。
〇ことりは　ちひさい　とりです。
〇ちひさい　とりを　ことりと　いひます。
〇これは　おほきい　とりですか、ちひさい　とりですか。
△ちひさい　とりです。

○ちひさい　とりを　なんといひますか。
△ことりと　いひます。
○ごらんなさい、こゝに　ことりが　に
　ひき　ゐます。
○この　ことりは　かごの　なかに　ゐ
　ます。
○こゝに　こどもが　ふたり　ゐます。
○この　こどもたちは　ことりを　みて
　ゐます。
○ことりは　どこに　ゐますか。
△かごの　なかに　ゐます。
○いくひき　ゐますか。
△にひき　ゐます。
○わたくしは　ことりが　すきです。
　わたくしは　うたが　すきです
　わたくしは　ゑが　すきです。
○すきの　はんたいは　きらひです。

わたくしは　いぬが　すきです。
　わたくしは　あめが　きらひです。
○あなたは　ことりが　おすきですか。
△はい、すきです。
○あなたは　うたが　おすきですか。
△はい、すきです。
○あなたは　あめが　おすきですか。
△いゝえ、きらひです。
○あなたは　ゑが　おすきですか、おき
　らひですか。
△(わたくしは　ゑが)　すきです。(または、
　「わたくしは　ゑが)　きらひです。」
○あなたは　ことりが　おすきですか、
　おきらひですか。
△(わたくしは　ことりが)　すきです。
○あなたは　どうですか。
△わたくしも　すきです。

△○その他。
○黒板に

ワタクシワ　コトリガ　スキデス
アナタワ　ナニガ　オスキデスカ
ワタクシモ　コトリガ　スキデス

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括

○これは　なんですか。
△ことりです。
○いくひき　ゐますか。
△にひき　ゐます。
○どこに　ゐますか。
△かごの　なかに　ゐます。
○あなたは　ことりが　おすきですか。
△はい、すきです。
○あなたは　かぜが　おすきですか。
△いゝえ、きらひです。
○あなたは　ゑが　おすきですか、おき
　らひですか。
△(わたくしは　ゑが)　すきです。
○あなたは　ことりが　おすきですか、
　おきらひですか。
△(わたくしは　ことりが)　すきです。
○あなたは　どうですか。
△わたくしも　すきです。
○その他。

三　備考

(一)　コトリをコドリ・ゴドリに、スキをスチに誤り易いから注意を要する。
(二)　スキのスの母音は無聲化する。

第四十一課　（第四十一頁）

一　教材

アナタワ　ジテンシャニ　ノル　コトガ　デキマスカ。

ハイ、デキマス。

構文　**〇〇ワ　〇〇ニ　〇〇　コトガ　デキマス。**

語彙　**ジテンシャ　ノル　コト　デキ(マス)**

〔教具〕自轉車・掛圖等。

二　指導

(一)　要領

1　本課は「〇〇は〇〇に〇〇ことができます。」といふ構文を授けるとともに「じてんしゃ」「のる」「こと」「でき(ます)」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては、(とぶ)「きく(聞)」(みる)(よむ)(あるく)(かく)「はなす」等の語彙を補充するとともに、可能の否定を表はす「できません。」といふいひ方をも補充することとした。

3　本課から第四十三課までは、いづれも「できます。」「できません。」といふ可能型に關する一聯の教材であるから、相互の連絡に注意することが肝要である。

4　本課には「できます。」といふ可能に對する肯定しか出してないが、教授上は、次の課の一部とともに、その否定形「できません。」をも提示する方が比較對照ができて好都合であるから「できません。」をも補充することとした。

(二)　問答

1　復習

○これは　なんですか。
△ことりです。
○いくひき　ゐますか。
△にひき　ゐます。
○どこに　ゐますか。
△かごの　なかに　ゐます。
○あなたは　ことりが　おすきですか。
△はい、すきです。
○あなたは　あめが　おすきですか。
△いゝえ、きらひです。
○あなたは　ゑが　おすきですか、おきらひですか。
△(わたくしは　ゑが)　すきです。
○あなたは　ことりが　おすきですか、おきらひですか。
△(わたくしは　ことりが)　すきです。
○その他。

2　提示

○こゝに　ことりが　ゐますか。
△いゝえ、ゐません。

○この　ゐの　なかに　ことりが　ゐます。
○この　ことりは　かごの　なかに　ゐます。
　そとへ　でる　ことが　できません。
○とりは　とぶ　ことが　できます。
　わたくしたちは　とぶ　ことが　できません。
○いぬも　とぶ　ことが　できません。
○わたくしは　みる　ことが　できません。(兩眼をおさへて)
○わたくしは　きく　ことが　できません。(兩耳をふさいで)
○あなたは　みる　ことが　できますか。
△はい、できます。
○あなたは　とぶ　ことが　できますか。
△いゝえ、できません。

○これは　じてんしゃです。(掛圖または略畫で示して)
○わたくしは　じてんしゃに　のる　ことが　できます。
○あなたは　じてんしゃに　のる　ことが　できますか。
△はい、できます。(または「いゝえ、できません。」)
○あなたは　この　ほんを　よむ　ことが　できますか。
△はい、できます。
○あなたは　あるく　ことが　できますか。
△はい、できます。
○あなたは　じを　かく　ことが　できますか。
△はい、できます。

○あなたは　うたを　うたふ　ことが　できますか。
△はい、できます。
○あなたは　じてんしゃに　のる　ことが　できますか。
△はい、できます。
○黑板に
アナタワ　ジテンシャニ　ノル　コトガ　デキマスカ
ハイ　デキマス
と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括

○これは　なんと　いふ　ほんですか。
△ハナシコトバと　いふ　ほんです。
○あなたは　ほんを　よむ　ことが　できますか。
△はい、できます。
○あなたは　じを　かく　ことが　できますか。
△はい、できます。
○あなたは　ゐを　かく　ことが　できますか。
△はい、できます。
○あなたは　じてんしゃです。
△はい、できます。
○あなたは　じてんしゃに　のる　ことが　できますか。
△はい、できます。(または「いゝえ、でき

ません。)
△○その他。

三　備　考

(一)　ジテンシャをジデンシャに、コトをコドに誤り易いから注意を要する。

(二)　ノルコトガは、ノル|コトガともいふ。

(三)　日本語の可能のいひ方には「乘れます。」といふやうな形式があるが、これは四段活用の動詞の場合のみに用ひられるので、應用の廣い「ことができます。」といふ形を先に修得させることとした。

第四十二課　(第四十二頁)

一　教　材

ワタクシワ　コノ　ホ|ンオ　ヨ|ム　コト|ガ　デキ|マセ|ン。

ナ|ゼデスカ。

ムズカシ|イカラデス。

構文　**○○ワ　コノ　○○オ　○○　コトガ　デキマセン。**

○○カラデス。

語彙　**ナゼ　ムズカシイ　〔(ムズカシイ)カラ〕**

〔教具〕重いもの、本(むづかしい本。やさしい本)

二　指　導

(一)　要　領

1　本課は、「○○はこの○○を(オ)○○ことができません。」といふ可能の否定を表はすいひ方及び「○○からです。」といふ構文を授けるとともに、「なぜ」「むづ(ズ)かしい」

(「むづかしい」から)等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては、「もちあげる」「おもい」「やさしい」等の語彙を補充することとした。

3　本課に於ては、前課を受けて、可能の否定型を徹底させることとした。

4　本課に新しく提示された「むづかしいからです。」の如く理由を示す「から」と、中の巻第十四課・第十七課・第三十課の起點を示す「から」との區別をはつきりわからせる必要がある。

(二)　問　答

1　復習

○これは　なんですか。

△じてんしゃです。

○あなたは　じてんしゃが　ありますか。

△はい、あります。(または、いゝえ、ありません。)

○あなたは　じてんしゃに　のる　ことが　できますか。

△はい、できます。(または、いゝえ、できません。)

○あなたは　うまに　のることが　できますか。

△はい、できます。(または、いゝえ、できません。)

○あなたは　うたを　うたふ　ことが　できますか。

△はい、できます。

○あなたは　ゑを　かく　ことが　できますか。

△はい、できます。

○その他。

2　提示

○あなたは　じを　かく　ことが　できますか。

△はい、できます。

○あなたは　ほんを　よむ　ことが　できますか。

△はい、できます。

○あなたは　この　ほんを　よむ　ことが　できますか。(むづかしい本を示して)

△いゝえ、できません。

○なぜですか。

○むづかしいからです。

○わたくしは　これを　もちあげる　ことが　できません。(重いものを指して)

○なぜですか。

○おもいからです。

○わたくしは　この　ほんを　よむ　ことが　できます。(やさしい本を示して)

○なぜですか。

○やさしいからです。

○やさしいの　はんたいは「むづかしい」です。

○これは　むづかしい　ほんですか、やさしい　ほんですか。

△やさしい　ほんです。

○あなたは　この　ほんを　よむ　ことが　できますか。

△はい、できます。

○なぜですか。

△やさしいからです。

○これは　やさしい　ほんですか、むづかしい　ほんですか。

△むづかしい　ほんです。

○あなたは　この　ほんを　よむ　ことが　できますか。
△いゝえ、できません。
○なぜですか。
△むづかしいからです。
△○その他。
○黒板に
ワタクシワ　コノ　ホンオ　ヨム　コトガ　デキマセン
ナゼデスカ
ムズカシイカラデス
と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括

○あなたは　じてんしゃに　のる　ことが　できますか。
△はい、できます。
○あなたは　とぶ　ことが　できますか。
△いゝえ、できません。
○これは　むづかしい　ほんですか、やさしい　ほんですか。（やさしい本を示して）
△やさしい　ほんです。
○あなたは　この　ほんを　よむ　ことが　できますか。
△はい、できます。
○なぜですか。
△やさしいからです。
○これは　やさしい　ほんですか、むづかしい　ほんですか。
△むづかしい　ほんです。
○あなたは　これを　よむ　ことが　できますか。
△いゝえ、できません。

○なぜですか。
△むづかしいからです。
△○その他。

三　備　考

(一)　デキマセンをデチマセンに、ムズカシイをムズガシイに、モチアゲルをモジアゲルに誤り易いから注意を要する。

(二)　理由を尋ねる場合には、「なぜですか。」のほかに「どうしてですか。」といふいひ方もある。

第四十三課　（第四十三頁）

一　教材

アナタワ　イチカラ　ヒャクマデ　カゾエル　コトガ
デキマスカ。
マダ　ヨク　デキマセン。

構文

語彙　ヒャク　カゾエル（ヨク）

符號　ゾ

〔教具〕紙五枚等。

二　指導

(一)　要領

1　本課は、既習の可能型によつて、「ひゃく」「かぞへる（よく）等の語彙を授けるのが主眼である。

2　本課に於ては、「しじふ」「ごじふ」「ろくじふ」「しちじふ」「はちじふ」「くじふ」の語彙を補充することとした。

3　「〇〇から〇〇まで」といふいひ方は、中の卷第十七課に既習させてあり、「いち」から「さんじふ」までは、第五課の月日の數へ方のところで授けてあるから、それと十分連絡して教へることが必要である。

4　第四十一課から始る可能型は一應本課で終つてゐるので、こゝで纒めて練習することが必要である。

(二)　問答

1　復習

〇これは　なんと　いふ　ほんですか。
△ハナシコトバと　いふ　ほんです。
〇むづかしい　ほんですか、やさしい　ほんですか。
△やさしい　ほんです。
〇あなたは　この　ほんを　よむ　ことが　できますか。
△はい、できます。
〇なぜですか。
△やさしいからです。
〇これは　むづかしい　ほんですか、やさしい　ほんですか。（むづかしい本を示して）
△むづかしい　ほんです。
〇あなたは　この　ほんを　よむ　ことが　できますか。
△いゝえ、できません。
〇なぜですか。
△むづかしいからです。
〇その他。

2　提示

○この　ゑを　ごらんなさい。（第八課の掛圖を示して）
○ほしが　たくさん　でてゐます。
○いくつ　でてゐますか、かぞへてみませう。
△さあ、いっしょに　かぞへてみませう。
△○ひとつ　ふたつ　みっつ　よっつ　いつゝ　むっつ　なゝつ　やっつ　こゝのつ　とを　じふいち、じふいち　でてゐます。
○かみが　あります。いくまい　ありますか。
○わたくしが　かぞへてみます。いち　に　さん　し　ご、ごまい　あります。
○さあ　いっしょに　かぞへてみませう。
△○いち　に　さん　し　ご、ごまい　あります。
○□さん、あなたは　いちから　じふまで　かぞへる　ことができますか。
△はい、できます。
○かぞへてごらんなさい。
△いち　に　さん　し　ご　ろく　しち　はち　く　じふ。
△○じふいち　じふに　じふさん　じふし　じふご　じふろく　じふしち　じふはち　じふく　にじふ。（反復數回）
（十、二十、三十、四十、五十、六十、七十、八十、九十、百。を漢字または算用數字で板書して）
△○じふ　にじふ　さんじふ　しじふ　ごじふ　ろくじふ　しちじふ　はちじふ　くじふ　ひゃく。（反復數回）
○□さん、あなたは　いちから　じふまで　かぞへる　ことが　できますか。
△はい、できます。
○○○さん、あなたは　じふいちから　にじふまで　かぞへる　ことが　できますか。
△はい、できます。
○××さん、あなたは　にじふから　さんじふまで　かぞへることが　できますか。
△はい、できます。
○あなたがたは　さんじふから　ひゃくまで　かぞへる　ことが　できますか。
△いゝえ、できません。
○さうです。あなたがたは　さんじふから　ひゃくまで　かぞへる　ことが　まだ　できません。
○みなさんは　いちから　ひゃくまで　かぞへることが　まだ　よく　できません。
○けれども　あとで　かぞへる　ことができませう。
△○その他。
○黒板に

アナタワ　イチカラ　ヒャクマデ　カゾエル　コトガ　デキマスカ
マダ　ヨク　デキマセン

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括

○□さん、いらから　じふまで　かぞへてごらんなさい。
△いち　に　さん　し　ご　ろく　しち　はち　く　じふ。
○あなたは　いちから　じふまで　かぞ

へる　ことが　できますか。
△はい、できます。
○あなたは　いちから　ごじふまで　かぞへる　ことが　できますか。
△まだ　よく　できません。
○いちから　ろくじふまで　かぞへる　ことが　できますか。
△まだ　よく　できません。
○あなたは　いちから　ひゃくまで　かぞへる　ことが　できますか。
△まだ　よく　できません。
△○その他。

三　備　考

(一)　イチカラをイジガラに、ヒャクマデをシャクマデに誤り易いから注意を要する。

(二)　數を數へさせるときには、學習者にも指折り數へさせるとよい。

第四十四課　（第四十四頁）

一　教　材

ハシノ　シタオ　フネガ　ニソートーッテイマス。
ニソートモ　ヒトガ　イッパイ　ノッテイマス。
ドチラノ　ホーガ　オーゼー　ノッテイルデショーカ。
構文　**ドチラノ　ホーガ　○○　○○テイルデショーカ。**
語彙　**ハシ　フネ　ニソー〔ニソー〕トモ〕　イッパイ**
〔ノッ(テイマス)〕〔ノッテ)イル〕

〔教具〕掛圖等。

二　指　導

(一)　要　領

1　本課は、「どちらのはうが○○△△てゐるでせうか。」といふ構文を授けるとと

もに「はし」「ふね」「にさう」(にさう)とも)「いっぱい」「のっ(てゐます)」(のって)ゐる)」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては「いくさう」の語を補充することとした。

3　本課から第四十六課までは、それ〴〵人數の多少、長い短い、輕い重い等を比較する一聯の教材であるから、相互の連絡に注意することが肝要である。

4　本課は人數の多少を比較する教材であるから、中の卷第六課及び第二十七課と連絡する必要がある。

(二)　問　答

1　復習

○あなたは　いちから　にじふまで　かぞへる　ことが　できますか。

△はい、(かぞへる　ことが)　できます。

○あなたは　いちから　ごじふまで　かぞへる　ことが　できますか。

△はい、できます。

○よく　できますか。

△まだ　よく　できません。

○あなたは　いちから　ひゃくまで　かぞへる　ことが　できますか。

△まだ　よく　できません。

○あなたは　この　ほんを　よむ　ことが　できますか。

△まだ　よく　できません。

○その他。

2　提示

○この　ゑを　ごらんなさい。(第三十四課の掛圖を示して)

○ひとが　いくにん　ゐますか。

いっしょに　かぞへませう。

△○ひとり　ふたり　さんにん　よにん　ごにん　ろくにん　しちにん。

○あなたは　ひとりから　じふにんまで　かぞへる　ことができますか。

△はい、できます。

○かぞへてごらんなさい。

△ひとり　ふたり　さんにん　よにん　ごにん　ろくにん　しちにん　はちにん　くにん　じふにん。

○この　ゑを　ごらんなさい。(掛圖を示して)

これは　はしです。

○はしの　うへに　こどもが　ゐます。

○いくにん　ゐますか。

△ふたり　ゐます。

○はしの　したを　ふねが　とぼってゐます。

○はしの　したを　ふねが　にさう　とぼってゐます。

○こどもは　なにを　みてゐますか。

△ふねを　みてゐます。

○こどもは　ふたりとも　ふねを　みてゐますか、ひとりだけ(ふねを)　みてゐますか。

△ふたりとも(ふねを)　みてゐます。

○ふねには　ひとが　のってゐます。

○にさうとも　ひとが　のってゐますか、いっさうだけ(ひとが)　のってゐますか。

△にさうとも　のってゐます。

○さうです。にさうとも　ひとが　おほぜい　のってゐます。

にさうとも　ひとが　いっぱい　のっ

てゐます。
○どちらの　はうが　おほぜい　のってゐるでせうか。かぞへてみませう。
○みぎの　ふねには　いくにん　のってゐるでせうか。
いっしょに　かぞへてみませう。
△○ひとり　ふたり　さんにん　よにん
どにん　ろくにん　しちにん　はちにん　くにん　じふにん　じふいちにん。
○じふいちにん　のってゐます。
○こんどは、ひだりの　ふねの　ひとを　かぞへてみませう。
△○ひとり　ふたり　さんにん　よにん
どにん　ろくにん　しちにん　はちにん　くにん　じふにん　じふいちにん。
○この　ふねにも　じふいちにん　のってゐます。
○どちらも　おなじ　にんずです。
△○その他。
○黒板に

ハシノ　シタオ　フネガ　ニソー　トーッテイマス
ニソートモ　ヒトガ　イッパイ　ノッテイマス
ドチラノ　ホーガ　オーゼイ　ノッテイルデショーカ

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括

○はしの　うへに　だれが　ゐますか。
△こどもが　ゐます。
○いくにん　ゐますか。
△ふたり　ゐます。
○なにを　してゐますか。

△はしの　したを　みてゐます。
○はしの　したを　なにが　とほってゐますか。
△ふねが　とほってゐます。
○いくさう　とほってゐますか。
△にさう　とほってゐます。
○ふねには　ひとが　おほぜい　のってゐますか。
△はい、おほぜい　のってゐます。
○それでは、ひとが　いっぱい　のってゐますか。
△はい、いっぱい　のってゐます。
○にさうとも　ひとが　いっぱい　のってゐますか。
△はい、(いっぱい)　のってゐます。
○どちらの　はうが　おほぜい　のってゐるでせうか。
△どちらも　おなじ　にんずです。
△○その他。

三　備考

(一)　シタをシダに、ニソーをニソに、トーッテをトーテ・トーッデに、イッパイをイッバイ・イパイに、オーゼーをオーゼ・オゼ等に誤り易いから注意を要する。

(二)　ハシ(橋)のアクセントがシにあることに注意して指導し、なほそれがハにあれば箸になることを知らせる必要がある。

(三)　「したをとほる。」といふ時の助詞「を」は、通るといふ動詞の目的を示すものではない。「とほる」「あるく」「はしる」「とぶ」「わたる」等の如く、自己が移動する場所を示す時は概ね「を」をとる。

第四十五課　（第四十五頁）

一　教材

エンピツガ　サンボン　アリマス。

イチバン　ナガイノワ　ドレデショーカ。

構文

語彙　サンボン　イチバン　ナガイ　ドレ（デショーカ）

〔教具〕鉛筆十本、本三冊大小厚薄等。

二　指導

(一)　要領

1　本課は、既習の構文によつて、「さんぼん」「いちばん」「ながい」「どれ（でせうか）」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては、「いっぽん」「にほん」「しほん」「ごほん」「ろっぽん」「しちほん」「はちほん」「くほん」「じっぽん」「みじかい」等の語彙を補充することとした。

3　本課は鉛筆の長短に關する教材であるが、二つのものを比較するときには「どちら」を用ひ、三つ以上のものを比較するには「どれ」を用ひるのが普通である。

(二)　問答

1　復習

○これは　なんですか。（掛圖の舟をさして）

△ふねです。

○どこを　とほってゐますか。

△はしの　したを　とほってゐます。

○はしの　うへに　だれが　ゐますか。

△こどもが　ゐます。

○いくにん　ゐますか。

△ふたり　ゐます。

○なにを　してゐますか。

△はしの　したを　みてゐます、

○ふねは　いくさう　とほってゐますか。

△にさう　とほってゐます。

○ふねには　なにが　のってゐますか。

△ひとが　のってゐます。

○おほぜい　のってゐますか、すこしのってゐますか。

△おほぜい　のってゐます。

○にさうとも　ひとが　いっぱい　のってゐますか。

△はい、にさうとも　いっぱい　のってゐます。

○どちらの　はうが　おほぜい　のってゐるでせうか。

△どちらも　おなじ　にんずです。

△○その他。

2　提示

○こゝに　えんぴつが　たくさん　あり

ます。(鉛筆を示して)
○いくほん　あるでせうか、かぞへてみませう。
○いっぽん　にほん　さんぼん　しほん　ごほん　ろっぽん　しちほん　はちほん　くほん　じっぽん。
○さあ、いっしょに　かぞへてごらんなさい。
△○いっぽん　にほん　さんぼん　しほん　ごほん　ろっぽん　しちほん　はちほん　くほん　じっぽん。
○これは　ながい　えんぴつです。(長い鉛筆を示して)
○これは　みじかい　えんぴつです。(短い鉛筆を示して)
○「ながい」の　はんたいは「みじかい」です。
○どちらか　ながい　えんぴつですか。

(長短二本の鉛筆を示して)
△こちらが　ながい　えんぴつです。
○えんぴつが　さんぼん　あります。(三本の鉛筆を示して)
○これは　ながい　えんぴつです。
これも　ながい　えんぴつです。
これも　ながい　えんぴつです。
○いちばん　ながいのは　どれでせうか。
○いちばん　ながいのは　これです。(最長の鉛筆を示して)
○いちばん　みじかいのは　どれでせうか。
○いちばん　みじかいのは　これです。
○こゝに　ほんが　さんさつ　あります。(本を三冊示して)
○いちばん　おほきいのは　どれでせうか。

△いちばん　おほきいのは　それです。
○いちばん　ちひさいのは　どれでせうか。
△いちばん　ちひさいのは　それです。
○いちばん　あついのは　どれでせうか。
△いちばん　あついのは　それです。
○いちばん　うすいのは　どれでせうか。
△いちばん　うすいのは　それです。
△○その他。
○黒板に
エンピツガ　サンボン　アリマス
イチバン　ナガイノワ　ドレデショーカ
と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括
○こゝに　えんぴつが　にほん　あります。
○どちらの　はうが　ながい　えんぴつですか。
△こちらの　はうが　ながい　えんぴつです。
○もう　いっぽん　あります。
○いちばん　ながいのは　どれでせうか。
△いちばん　ながいのは　それです。
○いちばん　みじかいのは　どれでせうか。
△いちばん　みじかいのは　それです。
○こゝに　ほんが　さんさつ　あります。
○いちばん　おほきいのは　どれでせうか。
△いちばん　おほきいのは　それです。
○いちばん　ちひさいのは　どれでせうか。

△いちばん　ちひさいのは　それです。
○いちばん　あついのは　どれでせうか。
△いちばん　あついのは　それです。
○いちばん　うすいのは　どれでせうか。
△いちばん　うすいのは　それです。
△○その他。
○こゝに　えんぴつが　たくさん　あります。
かぞへてごらんなさい。
△いっぽん　にほん　さんぼん　しほん
ごほん　ろっぽん　しちほん　はちほん　くほん　じっぽん。
△○その他。

三　備　考

(一)　エンピツをエンピツ・エンピズに、イッポンをイッポン・イポンに、イチバンをイジバン等に誤り易いから注意を要する。

(二)　鉛筆を數へるときの助數詞「本(ほん)」は、上の音によつて「イッポン」の如く「ポン」、「サンボン」の如く「ボン」ともなる。

(三)　「ながいのは」は「ながいえんぴつは」の意味で、この助詞「の」は名詞を明示する代りに用ひる「の」である。

(四)　「しほん」を「よんほん」「しちほん」を「なゝほん」「くほん」を「きう(キュー)ほん」といふいひ方もある。

第四十六課　（第四十六頁）

一　教　材

コノ　カバンワ　ソノ　カバンヨリ　カルイト　オモイマス。
アナタワ　ドー　オモイマスカ。
構文　**コノ　○○ワ　ソノ　○○ヨリ　○○ト　オモイマス。**
語彙　**カバン　カルイ　オモイ(マス)　ドー**
〔教具〕　鉛筆十本、赤色で厚い本及び黄色で薄い本各一冊、
鞄(重いもの)　輕(いもの)等。

二　指　導

(一)　要　領

1　本課は「この○○はその○○より○○とおもひ(イ)ます。」といふ構文を授けるとともに、「かばん」「かるい」「おもひ(ます)」「どう(ドー)」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　第四十四課から始る人數・長短・輕重等の比較に關する教材は一應こゝで終つ

てゐるので纏めて練習するとよい。

(二)　問　答

1　復習

○こゝに　えんぴつが　たくさん　あります。(鉛筆を十本示して)

△○いっぽん　にほん　さんぼん　しほん　ごほん　ろっぽん　しちほん　はちほん　くほん　じっぽん。

○いくほん　ありますか。(三本示して)

△さんぼん　あります。

○いちばん　ながいのは(ワ)　どれですか。

△それです。

○こゝに　ほんが　いくさつ　ありますか。(五冊示して)

△ごさつ　あります。

○いちばん　あついのは　どれですか。

△あかい　ほんです。(または他のもの)

○いちばん　おほきいのは(オー)　どれですか。

△きいろい　ほんです。(または他のもの)

○その他。

2　提示

○この　ゑを(エオ)　ごらんなさい。

○これは　かばんです。

○いくつ　ありますか。

△ふたつ　あります。

○これは　おほきい　かばんですか、ちひさい(チー)　かばんですか。

△おほきい　かばんです。

○これは　おもい　かばんです。

これは　かるい　ほんです。

「おもい」の　はんたいは　「かるい」です。

○これは　かるい　ものですか、おもいものですか。(輕い品物を示して)

△かるい　ものです。

○これは　おもい　ものですか、かるいものですか。(重い品物を示して)

△おもい　ものです。

○これは　どちらが　おもいでせう(ショー)か。(同じ位の重さのものを示して)

○よく　わかりません。こちらの　はう(ホー)が　おもいでせう。

○この　かばんは　おもいでせう。(繪畫を示して)

○この　かばんも　おもいでせう。

○どちらが　おもいでせうか。

○こちらの　はう(ホー)が　おもいでせう。

○わたくしは　この　かばんの　はうが　おもいと　おもひます。

○どちらが　かるいでせうか。

○この　かばんの　はうが　かるいと　おもひます。

○あなたは　どう(ドー)　おもひますか。

△わたくしも　さう(ソー)　おもひます。(自答して後いはせる。)

○こゝに　ほんが　にさつ　あります。

○あかい　ほんと　きいろい　ほんです。

○あかい　ほんは　きいろい　ほんより　あついと　おもひます。

○あなたは　どう　おもひますか。

△わたくしも　さう　おもひます。

○にっぽんごは　しなごより　やさしいとおもひます。

あなたは　どう　おもひますか。

△わたくしは　さう　おもひません、にっぽんごは　しなごより　むづ(ズ)かしいと　おもひます。

△○その他。

○黒板に

コノ　カバンワ　ソノ　カバンヨリ

カルイト　オモイマス。

アナタワ　ドー　オモイマスカ

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括

○こゝに　あかい　えんぴつと　きいろい　えんぴつが　あります。

○どちらが　ながいと　おもひますか。

△あかい　えんぴつの　はうが　ながいと　おもひます。

○あなたは　どう　おもひますか。

△わたくしも　さう　おもひます。

○こゝに　かばんが　ふたつ　あります。どちらが　おもいと　おもひますか。

△この　かばんが　その　かばんより　おもいと　おもひます。

○あなたは　どう　おもひますか。

△わたくしも　さう　おもひます。

△○その他。

三　備　考

(一)　カルイトをカルイドに誤り易いから注意を要する。

(二)　「思ひ」は「重い」と混同し易いから、この區別をはつきりさせるやうにしなければならない。

第四十七課　（第四十七課）

一　教　材

ゴビョーキワ　イカガデスカ。

アリガトーゴザイマス。

タイヘン　ヨク　ナリマシタ。

構文　**アリガトーゴザイマス。**

語彙　**ゴビョーキ　イカガ　アリガトー　（アリガトー）ゴザイマス　タイヘン**

符號　**ビョ　ザ**

〔教具〕　赤色で厚い本、黄色で薄い本、掛圖等。

二　指　導

(一)　要　領

1　本課は「ありがたうございます。」といふ挨拶語を授けるとともに「ごびゃうき」「い

かゞ」「ありがたう」(ありがたう)ございます。「たいへん」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては、「とこ」「すわっ(て)」「だめ」「かし(て)」等の語彙を補充することとした。

3　本課に於ては、「いかゞですか。」「ありがたうございます。」等の挨拶語を修得させることが肝要であるが、かゝる生活語は教室用語として豫め授けておくとよい。

(二)　問　答

1　復習

○こゝに　ほんが　にさつ　あります。
(赤黄の本を示して)
○どちらの　はう(ホー)が　あついと　おもひ(イ)ますか。
△あかい　ほんの　はうが　あついと　おもひます。
○あなたは　どう(ドー)　おもひ(イ)ますか。
△わたくしも　さう(ソー)　おもひます。
○どちらが　うすいと　おもひますか。
△きいろい　ほんの　はうが　うすいと　おもひます。
○あなたは　どう　おもひますか。
△わたくしも　さう　おもひます。
○どちらが　おほ(オー)きいと　おもひますか。
(赤い本を二冊示して)
△この　ほんの　はうが　おほきいと　おもひます。
○あなたは　どう　おもひますか。
△わたくしも　さう　おもひます。
○この　ほんは　その　ほんより　おほきいと　おもひますか、ちひさいと　おもひますか。

△ちひさいと　おもひます。
○あなたは　どう　おもひますか。
△わたくしも　さう　おもひます。
△○その他。

2　提示

○この　ゑ(エオ)を　ごらんなさい。(掛圖を示して)
○をん(オ)なのこが　ふたり　ゐ(イ)ます。
○この　ふたりは　ともだちで　せう(ショー)。
○ひとりの　をんなのこは　びやう(ヒョー)きだと　おもひます。
○あなたは　どう　おもひますか。
△わたくしも　さう　おもひます。
○この　をんなのこは　ねてゐません。
とこの　うへ(エ)に　すわってゐます。
○この　をんなのこは　いま　なにをしてゐますか。
△ともだちと　はなしを　してゐます。
○ともだちは　たってゐますか、すわってゐますか。
△すわってゐます。
○なにを　してゐますか。
△びやうきの　ともだちと　はなしをしてゐます。
○「ごびやうきは　いかゞですか。」と　いってゐます。
○びやうきの　をんなのこは　「ありがたう(トー)ございます。」と　いってゐます。
○黒板に
アリガトーゴザイマス
と書き、はつきりと繰返して讀ませる。
○□さん、えんぴつを　かしてください。
○ありがたうございます。(鉛筆を受取り

ながら)

○この　をんなのこは　なんと　いひましたか。

△「ありがたうございます。」と　いひました。

○この　をんなのこは　まへに　びゃうきでした。

いまは　たいへん　よく　なりました。

○みなさんの　にっぽんごは　まへには　だめでした。

けれども　いまは　たいへん　よく　なりました。

△○その他。

○黒板に

ゴビョーキワ　イカガデスカ

アリガトーゴザイマス

タイヘン　ヨク　ナリマシタ

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括

○こゝに　をんなのこが　いくにん　ゐますか。

△ふたり　ゐます。

○なにを　してゐますか。

△ひとりの　をんなのこは　とこの　うへに　すわってゐます。

○この　をんなのこは　どうしたのでせう。

△この　をんなのこは　びゃうきです。

○あなたも　ごびゃうきですか。

△いゝ(イー)え、わたくしは　びゃうきではありません。

○この　をんなのこの　びゃうきは　どうですか。

△たいへん　よく　なりました。

○□さん、それを　かしてください。

○ありがたうございます。(受取る。)

△○その他。

三　備　考

ゴビョーキは正しく發音し難く、アリガトーゴザイマスをアリガドーゴザイマス・アリガトゴザイマスに誤り易いから注意を要する。

第四十八課　（第四十八頁）

一　教材

ソラガ　クモッテキマシタ。
アメガ　フリソーデス。
構文　〇〇ガ　〇〇ソーデス。
語彙　クモッ(テ)　(フリ)ソーデス
〔教具〕掛圖等。

二　指導

(二)　要領

1　本課は、「〇〇が〇〇さうです。」といふ構文を授けるとともに、「くもって」「(ふり)さうです。」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては、「(かして)あげ(ませう)」「まんなか」「おち(さうです)」「たふれ(さうです)」「すぐ」等の語彙を補充することとした。

3　本課に於ては、既習の「〇〇でせう型」に對して、新しく提出された「〇〇さうです。」といふ推量型を十分徹底させることが肝要である。

(二)　問答

1　復習

〇□さん、えんぴつを　かしてください。
〇ありがたうございます。（受取る。）
〇□さん、これを　あなたに　かしてあげませう。（渡す）
△ありがたうございます。
〇この　をんなのこは　どう　しました　か。
△この　をんなのこは　びやうきです。
〇ともだちは　なんと　きいてゐますか。
△「ごびやうきは　いかゞですか。」と　きいてゐます。
〇びやうきは　まへより　よくなりましたか、わるく　なりましたか。
△まへより　よく　なりました。
〇たいへん　よく　なりましたか、すこし　よく　なりましたか。
△たいへん　よくなりました。
〇みなさんの　にっぽんごは　まへより　たいへん　よく　なりました。
△ありがたうございます。
〇△その他。

2　提示

〇ごらんなさい。これは　くもです。（掛圖の繪によつて）
〇そらには　くもが　いっぱいです。
〇まへには　そらが　はれてゐました。

○そらには　くもが　ありませんでした。
○いまは　そらが　くもってきました。
○いま　そらは　はれてゐますか、くもってゐますか。
△くもってゐます。
○そらには　なにが　いっぱい　ありますか。
△くもが　いっぱい　あります。
○あめが　ふるでせう(ショー)か。
○はい、ふるでせう。
○さう(ソー)です。あめが　ふりさう(ッソー)です。
○ごらんなさい。つくゑ(エ)の　うへ(エ)に　ほんが　あります。
○この　ほんは　つくゑの　まんなかにありません。
○おちさうです。あ、おちました。
○この　ほんは　いま　たててあります。
(本を立てて)
○この　ほんは　たふ(フ)れさうです。あ、たふれました。
○この　そらは　はれてきましたか、くもってきましたか。
△くもってきました。
○さうです。さう(ッソー)して　あめが　ふりさうです。
○どこが　くもってきましたか。
△そらが　くもってきました。
○なにが　ふりさうですか。
△あめが　ふりさうです。
○この　をんなのこの　びゃうきは　よく　なりさうですか。
△はい、よく　なりさうです。
△○その他。
○黒板に

ソラガ　クモッテ　キマシタ
アメガ　フリソーデス

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括

○これは　なんですか。
△くもです。
○どこに　ありますか。
△そらに　あります。
○いっぱい　ありますか、すこし　ありますか。
△いっぱい　あります。
○そらは　どう　なってきましたか。
△くもってきました。
○なにが　ふりさうですか。
△あめが　ふりさうです。
○かぜが　ふきさうですか。
△わかりません。
○すぐ　はれさうですか。
△いゝ(イー)え、はれさうではありません。
△○その他。

三　備　考

クモッテをクモテ・クモッデに、フリソーデスをフリソデス等に誤り易いから注意を要する。

第四十九課　（第四十九頁）

一　教材

カゼガ　ヤミマシタ。
シズカナ　ユーガタデス。
モー　スグ　ツキガ　デルデショー。

構文

語彙〔ヤミ(マシタ)〕シズカナ　ユーガタ　スグ

符號　グ

〔教具〕掛圖等。

二　指導

(一)　要領

1　本課は、既習の構文によって、やみ(ました)「しづかな」「ゆふがた」「すぐ等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては、「をはる」の語を補充することとした。

(二)　問答

1　復習

○これは　なんですか。
△くもです。
○どこに　ありますか。
△そらに　あります。
○そらは　いま　くもってきましたか、はれてきましたか。
△くもってきました。
○それでは、どう　なりさうですか。
△あめが　ふりさうです。
○その他。
△

2　提示

○この　ゑを　ごらんなさい。
○これは　ゆふがたの　ゑです。
○そらは　はれてゐますか、くもってゐますか。
△はれてゐます。
○あめが　ふりさうですか。
△いゝえ、ふりさうではありません。
○かぜが　ふいてゐますか。
△いゝえ、かぜは　ふいてゐません。
○かぜは　やみました。
△しづかな　ゆふがたです。
○いま　ひが　でてゐますか。
△いゝえ、でてゐません。
○ひは　もう　はいりましたか。
△はい、はいりました。
○つきは　もう　でてゐますか。
△いゝえ、まだ　でてゐません。

○もう　すぐ　でるでせうか。
△はい、もう　すぐ　でるでせう。
○この　ほんは　もう　すぐ　をはるでせうか。（「ハナシコトバ」を指して）
△もう　すぐ　をはるでせう。
○もう　すぐ　かねが　なるでせうか。
△いゝえ、まだ　ならないでせう。
○黒板に

カゼガ　ヤミマシタ
シズカナ　ユーガタデス
モー　スグ　ツキガ　デルデショー

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括

○これは　なんの　ゐですか。
△ゆふがたの　ゐです。
○そらは　はれてゐますか、くもってゐますか。
△はれてゐます。
○かぜが　ふいてゐますか。
△かぜは　ふいてゐません。
○どんな　ゆふがたですか。
△しづかな　ゆふがたです。
○つきは　でてゐますか。
△いゝえ、でてゐません。
○もう　すぐ　でるでせうか。
△はい、もう　すぐ　でるでせう。
○かねは　もう　すぐ　なるでせうか。
△はい、もう　すぐ　なるでせう。
△○その他。

三　備　考

シズカナをシズガナに、ユーガタをユガタ・ユーガダに誤り易いから注意を要する。

第五十課　（第五十頁）

一　教　材

ユーベワ　ツキヨデシタ。
ヒルマノ　ヨーニ　アカルイ　ツキヨデシタ。

構文　**○○ノ　ヨーニ　○○　○○デシタ。**
語彙　**ツキヨ　ヒルマ　ヨーニ　（アカルイ）**
〔教具〕掛圖等。

二　指　導

(一)　要　領

1　本課は「○○のやうに○○△△でした。」といふ構文を授けるとともに「つきよ」「ひるま」「やうに」（あかるい）等の語彙を修得させるのが主眼である。

2　本課に於ては、「ある（有）」の語を補充することとした。

3　本課に於ては「○○のやうに」といふ比況のいひ方を十分徹底させる工夫が肝

要である。

(二)　問　答

1　復習

○これは　いつの　ゑですか。
△ゆふがたの　ゑです。
○どんな　ゆふがたですか。
△しづかな　ゆふがたです。
○かぜが　ありますか。
△かぜは　ありません。
○まへに　ふいてゐましたか。
△はい、ふいてゐました。
○いまは　どうですか。
△いまは　ふいてゐません。
○つきが　でましたか。
△いゝえ、まだ　でません。
○まだ　なか〳〵　でないでせうか。
△いゝえ、もう　すぐ　でるでせう。
○その他。

2　提示

○この　ゑを　ごらんなさい。
○これは　ひるまですか、よるですか。
△よるです。
○なにが　でてゐますか。
△つきが　でてゐます。
○つきの　ある　よるを　つきよと　いひます。
○これは　つきよの　ゑです。
これは　あかるい　つきよです。
まるい　つきが　でてゐます。
○これは　たいへん　あかるい　つきよです。
ひるまの　やうに　あかるい　つきよです。

みんな　よく　みえます。
○けふは　いくにちですか。
△〇〇にちです。
○きのふは　なんにちでしたか。
△〇〇にちでした。
○ゆふべは　つきが　でましたか。
△はい、でました。(または、いゝえ、でませんでした。)
○ゆふべは　つきよでしたか、さうでは　ありませんでしたか。
△つきよでした。(または、つきよではありませんでした。)
○あかるい　つきよでしたか、くらい　つきよでしたか。
△あかるい　つきよでした。(または、くらい　つきよでした。)
○ひるまの　やうに　あかるい、つきよでしたか、さうではありませんでしたか。
△ひるまの　やうに　あかるい　つきよでした。(または、「さうではありませんでした。」)
△○その他。
○黒板に

ユーベワ　ツキヨデシタ
ヒルマノ　ヨーニ　アカルイ　ツキヨデシタ

と書く。この取扱方の要領は前課の如くする。

3　總括

○これは　なんの　ゑですか。
△つきよの　ゑです。
○どんな　つきが　でてゐますか。
△まるい　つきが　でてゐます。

○あかるい　つきよですか、くらい　つきよですか。
△あかるい　つきよです。
○ひるまの　やうですか、さうではありませんか。
△ひるまの　やうです。
○ゆふべは　つきよでしたか。
△はい、さうでした。（または、「いゝえ、さうではありませんでした。」）
○あかるい　つきよでしたか。
△はい、さうでした。（または、「いゝえ、さうではありませんでした。」）
○ひるまの　やうに　あかるい　つきよでしたか、さうではありませんでしたか。
△ひるまの　やうに　あかるい　つきよでした。（または、「さうではありませんでした。」）
○△その他。

三　備　考

(一)　ユーベをユベ・ユーベに、ツキヨをツチヨに、ヒルマをシルマに、ヨーニをヨニ等に誤り易いから注意を要する。

(二)　もし日本語に堪能な中國人教師がをれば、は支那語に堪能な日本人教師がをれば、「○○せんせいは　にっぽんじんの　やうに　にっぽんごが　じゃうずな　せんせいです。」または、「○○せんせいは　しなじんの　やうに　しなごが　じゃうずです。」などの練習をしてもよい。

附　錄

日本語教科用　**ハナシコトバ**　編纂要旨

一　目　的

ハナシコトバ是爲使青年男女學習極簡易竝且必要的日本的「說的話」起見而編纂的。

人要學日本話有兩種方法：一種是學「說的話」，就是把人家所說的話用耳朶聽的；一種是學「念的話」，就是用眼睛看的。但是學者要領略「念的話」，還是先要學會「說的話」。本書的目的是在學習淺近常用的話，故此，要學習「說的話」。

一　材　料

本書是用基本的「詞類」和「構文」而發表日常的事項。

「詞類」在教科書採用大約六百，在學習指導書也相當的添上。元來基

本的「詞類」要言談圓滑，越多越好，可是，學習的初階不能如此泛論；所以採用尤其重要的「詞類」，叫人自由的運用是要緊的。本書有見於此，採用與學者不可缺少的「詞類」。然而要使學者善用「詞類」，不得不教授「構文」。「構文」就是用「詞類」發表思想、感情的一種形式。學習日本話最要緊的是學會「詞類」和「構文」，可是「構文」的種類很繁多，若是正確的學會基本的「構文」，學者必能及早熟習日本話只要通曉「構文」，「詞類」是可以隨時補足。本書上或者有不合實際的「說的話」，這可是由簡進難的學話的途徑上，必須經過的方法；像這樣的方法，隨着學習的進步漸漸整理。

一　組織

本書分上、中、下三卷。在上卷最注重叫學者聽得明白用「主語」和「述語」作的「句」，再加上「補足語」乃至「賓語」的程度的話，並養成會說上項程度的日本話的能力。在中卷更進一步，教授添加簡單的「附加語」的程度和在上卷還沒有教授過的「表現形式」以及簡單的「複句」；在下卷應用在上、中兩卷所教授的「表現形式」爲主，再比上、中兩卷提高程度稍見複雜。

一　發音符號

本書是爲學習「說的話」而作的課本，所以，竟用發音符號。至於用發音符號就算五種方法：㈠用注音符號㈡用萬國發音符號㈢用羅馬字㈣用漢字㈤用かな；本書決定對於學習的人，借用かたかな作發音符號。本來借用かたかな作發音符號的時候，對於㈠が行濁音㈡無聲化母音等等，總要想表示得精密法子；、但是本書爲學習要方便和符號要簡略起見，從簡表示。

本書採取「空格式的寫法」，除助動詞和助詞緊連上詞外，其他「詞類」都一一離開以便容易學習。

但是借用かたかな作發音符號，最怕學者錯認「正字法」(正當的かたかな的用法)，所以，本書特將字形加以變改以便分明區別。指導者務必用適當的方法，把此等區別叫學者認清是要緊的。

一　教授時間

本書大約得一百五十個小時纔能教授完畢，可是教授的時候，斟酌地方的情形，學習的目的和學習的能力，增減時間也可以。

日本語教科用　**ハナシコトバ學習指導書　中　凡例**

一　ハナシコトバ是爲初學日語的人要會說會聽而編纂的。這是在不多的日字，使學會日常生活上必不可缺的應酬話和極簡單的「說的話」而作的課本。指導方法不得其宜，就不能得到完善的效果；所以本指導書和「編纂要旨」都把關於指導學習的要點開列，以供實際指導的參考。

我們日常談話是以音聲爲主；此外，有意識的，或無意識的，用手勢、態度、表情、動作等等，彼此互相傳達思想、感情，並不是竟用音聲構成的；所以初學語言的時候，非用含有此等眞相的教材和指導的方法，不足以收完全的效果。本書特注重此點編纂的，並在如此的立場上計劃來作學習指導的。

一　照着前項的主旨，學習指導的方法，先使學者利用身邊的事物，直接了解，然後，用繪畫和符號供作備忘，務期使學者練習得到十分了

解。

一　本書所說的指導方法，只不過是基礎事項。至於在各教授時間，用這基礎事項作爲指導內容，而使之成爲活教材，應如何發展，如何組織，都俟指導者研究籌劃。若指導內容決定後，第二個問題就是所謂指導程序。

指導程序首先溫習已經學習的教材，再把這項教材用在新教材上頭結合應用，務期學者確實學習。

指導內容和指導程序決定後，更要規定指導方法，籌劃「豫定案」。有這「豫定案」指導者能知道學者對於那個教材怎麼樣的學習；若是沒有這「豫定案」無論如何盡心的努力，別說是指導，就連學習的眞相也不能知道。

指導方法有使學者聽指導者或是別的學者所說的話，所謂「聽法」，或使學者自己說話，所謂「說法」以及指導者和學者或學者們互相「問答」；這幾種指導方法作「基本單位」，把這些方法配合，纔能規定這指導方法。

(1) 聽法　學習外國話的出發點就在「聽法」。要緊的是使學者多聽，更要聽的正確。

(2) 說法　學習語言，竟聽人家所說的話，那是不能學會的。總要自己積極的說話纔能聽的正確。元來說話和聽話是有離不開的關係：練習說話纔會聽，練習聽話纔會說，這是實情；所以總得使學者得有這兩方面練習的機會。

(3) 問答　平常我們說話是以聽話和說話爲主；可是，「問答」是稍微不同，有特別的性質。先說「問答」的特別性質，第一：會話是「生活的」「內容的」，可是，「問答」是「反省的」「形式的」；第二：會話是「全人的」(知、情、意的三方面都包含在內的)，可是，「問答」就是「知的」，所以「問答」是問的人和回答的人都站在對立的立場上，用「形式的問答」的。故此，「問答」是由「聽法」「說法」所學的語言，使學者的確把握那個發音和意思的學習指

導法，而且使學者容易應用的；這個指導法的恰當與否，眞可以說是決定學習指導的死活。

「指導法」的「問答」，比較日常會話，難免有不自然的地方，可是這都是內容上的不自然，並不是形式上的不自然。知識的程度和語言的程度不一致的學者，對於語言訓練，總是難免內容上的不自然；所以，總要小心不失日常會話的自然性，並不要背戾語言訓練的宗旨。

一　使學者學習日本話的時候，特別重要的是指導方法。我們學會語言是竟靠環境，我們在父母兄姊和周圍人的周到的顧慮之下，不知不覺的就成爲「語言社會」裏的人；可是學習外國話是不同的，不是靠環境，要專靠努力研究，在指導者的指導之下，飜來覆去的練習，纔能達到夠用的程度。這個時候指導者應當視如嬰兒乍學本國語言時，父母兄姊的態度一般，對於發音腔調的不妥當以及「詞類」的不恰當，語法的不正確等，暫且不必太嚴，只求達意，單聽他們的不完全的話，也就知

道那裏頭的意思，務期一面使學者對於日語覺得親近，一面鼓勵學者說日語的興致和勇氣；總之，必須養成學者要用日語說話的意思。倘指導者期望學習者的發音用語和文法的正確，指正的太嚴，那麼學者必至敗興喪膽，恐怕學習日語的勇氣都要喪失了！　初學時，不要指導的太嚴，而期望將來的成功，這是指導上最要緊的事。

如此，可以鼓起學習日語的興味，養成愛說話的心思，然後，隨着學習的程度，再指改用語、發音、文法，並期望逐漸會話的進步。這兩樣態度，是不能缺一樣的，又不能錯機宜的，不然，就不能指導日語的學習。

一　本書學習指導的方法，不以時間爲「單位」而計劃的，就是以教材爲「單位」而計劃的。這是因爲在學習的「時」(時候)「所」(地方)「位」(程度)上合式的，而且，可以對付繁簡伸縮。

一　本書的組織基於上述的要旨，各課分置「教材」「指導」「備考」三項；在「指導」

上表明學習指導的要領和方法，在「備考」上注意指導和發音。

一　本書也是和上卷一樣，把かたかな當發音符號用，這是跟事物和繪畫一樣，不過是一種「教具」，用這個練習「詞類」和「文法」。至於實在的指導，總要在眼前的事實出發，當發音符號的「かたかな」是應當限於備忘。

一　本書上所記載的「問答」和教科書上的話，都是比平常的說法稍微不同，可是，這也是由於語言訓練上必不得已的事。

一　本書上的各課，特意的記載「指導計劃」；是在各教材的「說的話」的學習上，必要用的「問答」，所以，指導時，須看學者的力量，學習的地方以及學習的時候，斟酌添除，務期相宜是爲要緊。

一　本書上所記載的「補充語」，限於教材的示知和學習上不可缺少的語詞；所以，斟酌學班的大小，學生知識的程度以及別的理由；學生的學習能力上，如有餘裕，本書上所記載以外，宜須選擇恰當的「詞類」補足，以圖「詞類」的增加，但是，在這時，總要選擇基於教材和環境的「詞類」纔好。

日本語教科用

ハナシコトバ　中　華語譯

第一頁　花兒開着哪。開着有幾朵？　開着有八朵。

第二頁　有紙。有幾張？　一、二、三、四、五，有五張。

第三頁　有五本書。有幾本厚書？　有兩本。

第四頁　現在幾點鐘？　九點二十五分。

第五頁　現在是幾月？　是二月。今天是幾號？　是十一號。

第六頁　有兩個男人。有五個女人；一共有幾個人？

第七頁　月亮出來了。山上現出了圓月亮了。

第八頁　有很多的星星。也有大的，也有小的。

第九頁　天晴了哪。風箏起的高着哪。

第十頁　我前天上公園去了。有很多的小孩子玩兒來着。

第十一頁　小孩子做甚麼哪？　拿砂子堆着山哪。

第十二頁　這是甚麼畫兒？　我不知道。這是櫻花。

第十三頁　櫻花是春天開。春天開各樣的花。

第十四頁　夏天是很熱的時候，臉上和身上都出汗。

第十五頁　現在是秋天。草和樹葉子都黃了。

第十六頁　到了冬天了。每天颳冷風。

第十七頁　一年有春、夏、秋、冬。從幾月到幾月叫春天呢？

第十八頁　鈴木！　你右邊的這位是渡邊嗎？　不是！　在我右邊的這位是高橋。

第十九頁　鈴木在我的傍邊兒。齋藤在也傍邊兒。

第二十頁　舍下就在郵政局的隔壁兒。渡邊家在學校的傍邊兒。

第二十一頁　給我十張明信片。給我五張一分的郵票。

第二十二頁　那封信給誰寄去呢？　這是給上海的朋友寄去的。

第二十三頁　那位身量高的是你的朋友嗎？　不是，是我哥哥。

第二十四頁　我有一個姐姐和一個妹妹。我們是親手足。

第二十五頁　您和令弟歲數兒差幾歲呢？　差三歲。

第二十六頁　哥哥比我歲數兒大兩歲。弟弟比我小兩歲。

第二十七頁　敝眷有五個人，寶眷也有五個人；都是一樣的人數。

第二十八頁　那家都掛着旗子哪。那是日本的國旗。

第二十九頁　出太陽的那邊叫東方。落太陽的那邊叫甚麼？

第三十頁　那邊是南方？　對着南的方面叫甚麼？

第三十一頁　汽車往南跑去了。飛機從東方飛來了。

第三十二頁　諸位！　唱歌兒吧！　來！　一齊唱吧！

第三十三頁　天黑了。電燈來了。早點兒回家去吧！

第三十四頁　高橋今天又告假了。怎麼了？

第三十五頁　道路濕着哪。多嗒下的雨。昨天晚上下的吧。

第三十六頁　這場雨，你想快住了嗎？還不容易住吧。

第三十七頁　天亮了。明天天晴吧！

第三十八頁　齋藤剛纔到這裡來了嗎？沒有！沒來。

第三十九頁　好看的鳥飛來了。那叫甚麼鳥呢？

第四十頁　我愛小鳥。您愛甚麼？我也愛小鳥。

第四十一頁　你會騎自行車嗎？是，會。

第四十二頁　我不會念這本書。因爲甚麼呢？因爲不容易。

第四十三頁　你會從一數到一百嗎？還不大會。

第四十四頁　橋底下走着有兩隻船。兩隻船都坐滿了人了。那隻船人坐的多呢？

第四十五頁　有三管鉛筆。最長的是那管？

第四十六頁　我想這個箱子比那個箱子還輕。你想怎麼樣？

第四十七頁　貴恙麼樣？　承問承問，　很見好了。
第四十八頁　天陰起來了。　要下雨了。
第四十九頁　風住了。　是清靜的黃昏。　快出月亮了吧！
第五十頁　昨天晚上有月亮。　好像白天似的那麼亮的月亮天。

注意：在日本教師喚叫學生的時候或者學生們彼此喚叫的時候，大概學生的姓或名字底下都添「サン」或「クン」而一面表示尊敬，一面表示親密；可是本書當飜譯之際，照着中國的習慣都省略了。

日本語教科用
ハナシコトバ學習指導書　中
(停)定價　壹圓五拾錢

昭和十六年七月二十六日　印刷
昭和十六年七月三十日　發行

發行者　東京市麹町區霞ヶ關三丁目四番地ノ三　財團法人　東亞同文會
代表者　一宮房治郎

印刷者　東京市芝區芝公園十二號地ノ一　大日本教化圖書株式會社
代表者　川口芳太郎

不許複製

發行所　東京市麹町區霞ヶ關三丁目四番地ノ三　財團法人　東亞同文會
電話銀座(57)二二〇五番　二六五九四八番　五五〇六番
振替東京四八五五〇番

810.7
To12

發行所

振替口座東京一〇六八五番
電話番號（九〇）二二〇八番

發行人　東亞同文會

東京市麻布區霞町三十四番地ノ三

印刷者　田口芳太郎

東京市芝區三田三公園十二號地ノ一

大日本發明圖書株式會社

發行者　一宮忠治

東京市麻布區霞町三十四番地ノ三

發行所　東亞同文會

昭和十六年十月三十日發行
昭和十六年十一月一十六日印刷

發賣元　冨山房

八七七ページ　學校計算書　中
日本郵稅共　四錢

終